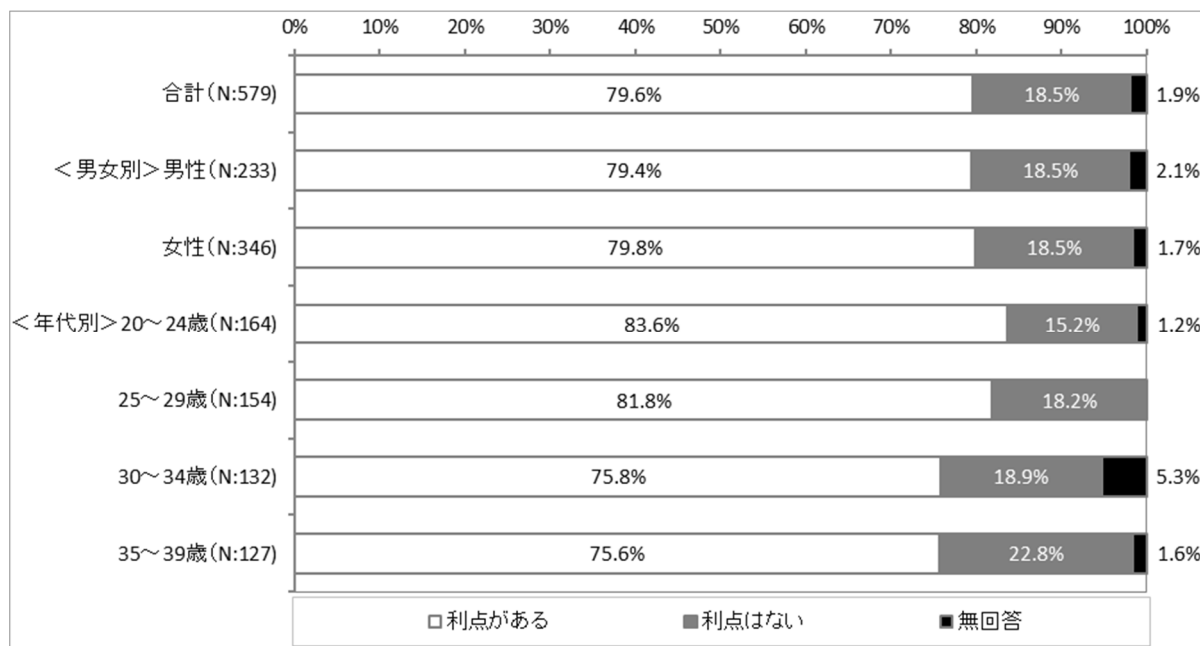


問22. 一般的に、結婚することの利点はどのようなことだと思いますか。  
 利点がある場合は「利点がある」に○を記入し、その理由を3つ記入してください。  
 利点がない場合は「利点はない」に○を記入してください。

・結婚することの利点

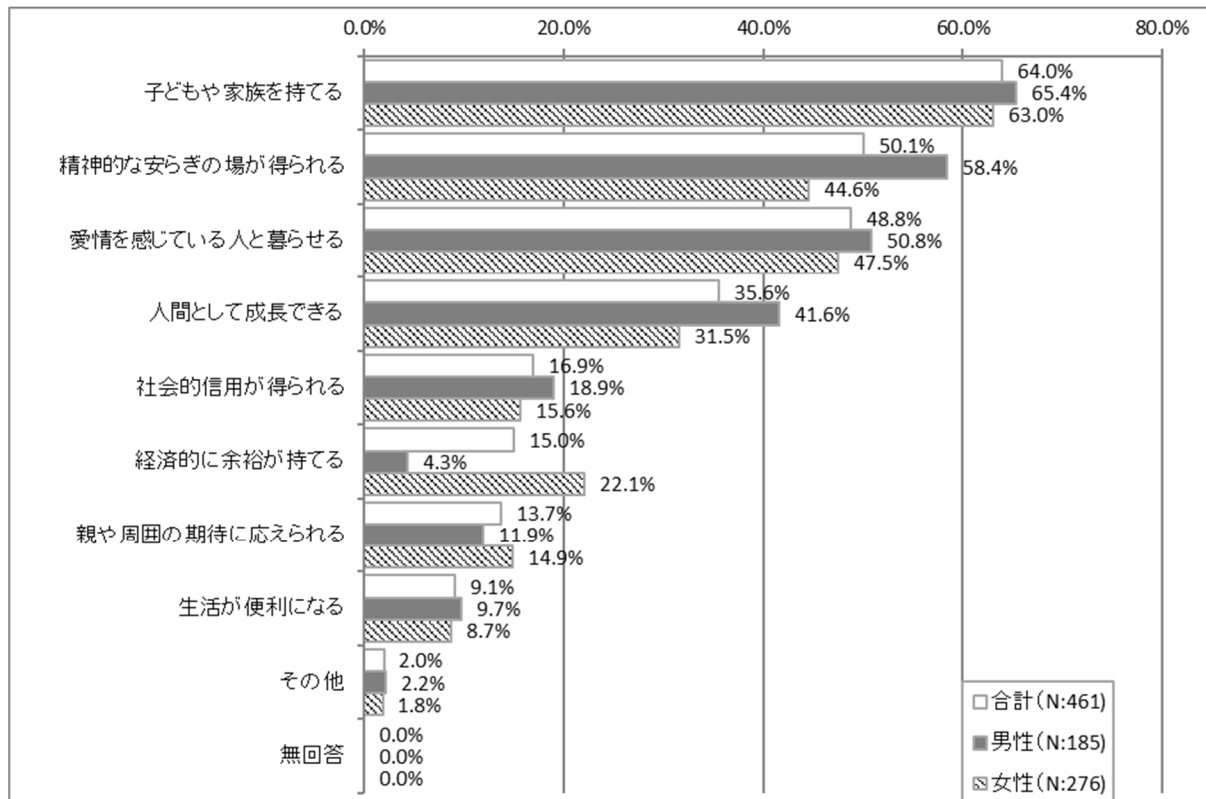


全体では、「利点がある」79.6%、「利点はない」18.5%となっており、男女による差は見られない。

① 年代別の傾向

「利点がある」は年代が下がるにつれて多くなり、「20～24歳」が83.6%と最も多く、「利点はない」は年代が上がるにつれて多くなり「35～39歳」で22.8%となっている。

・結婚することの利点がある理由（合計・男女別）

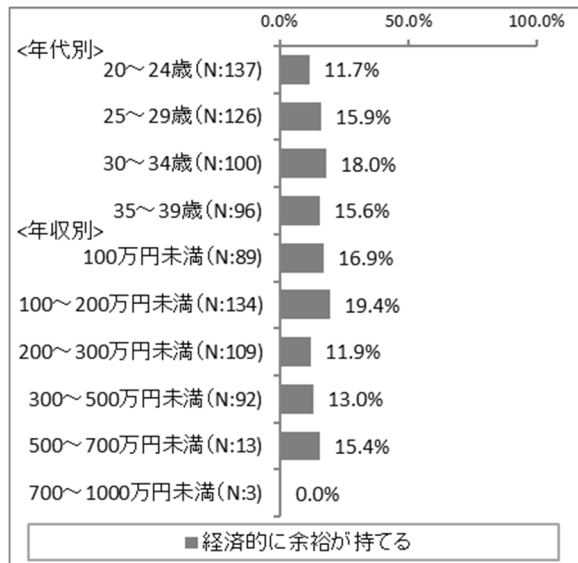
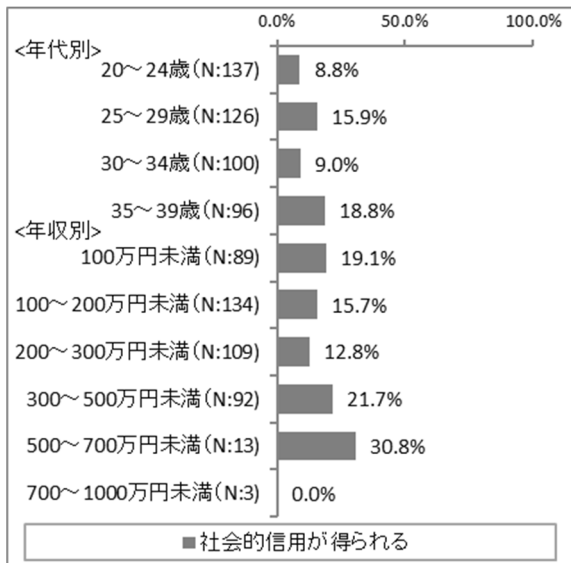
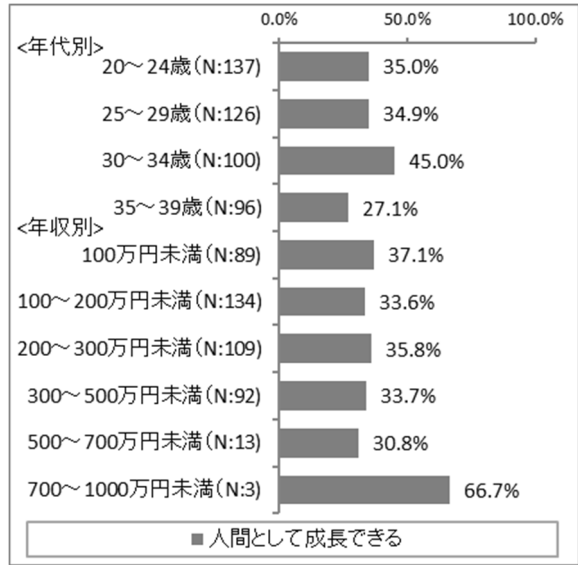
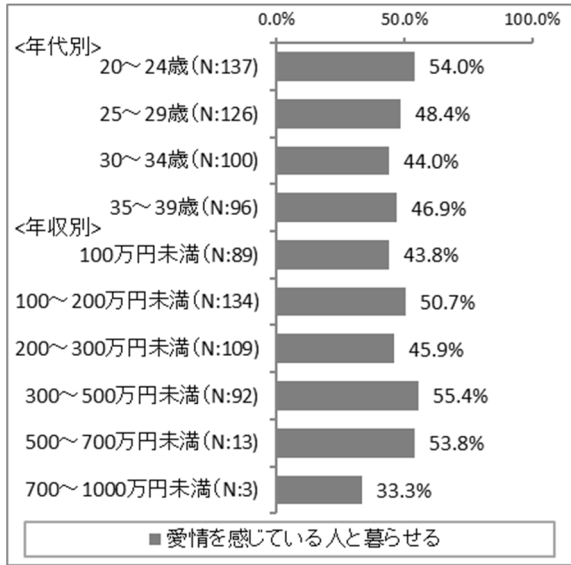
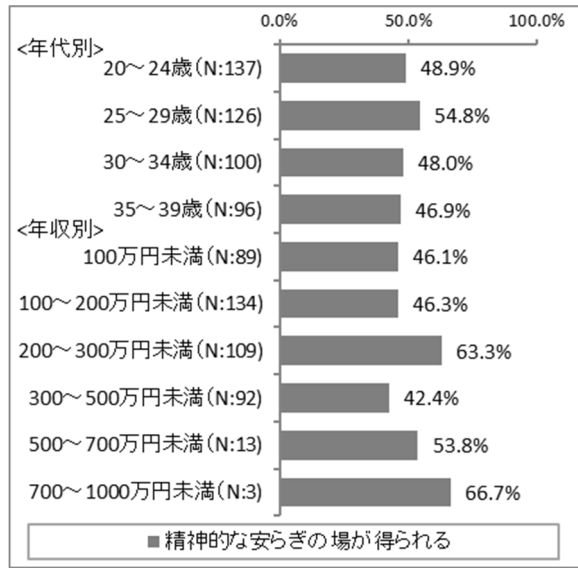
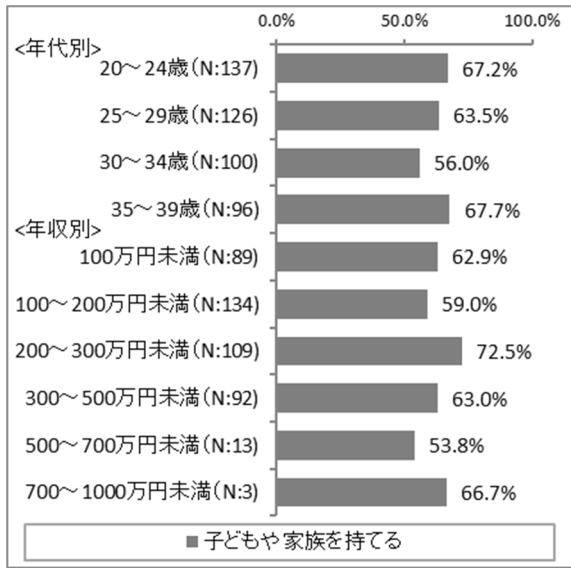


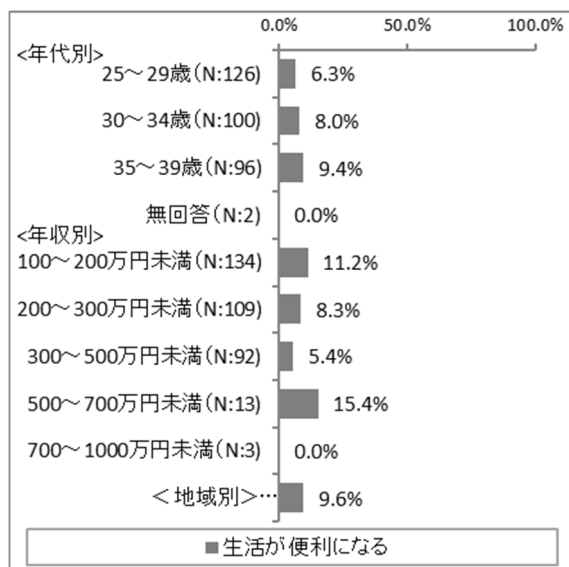
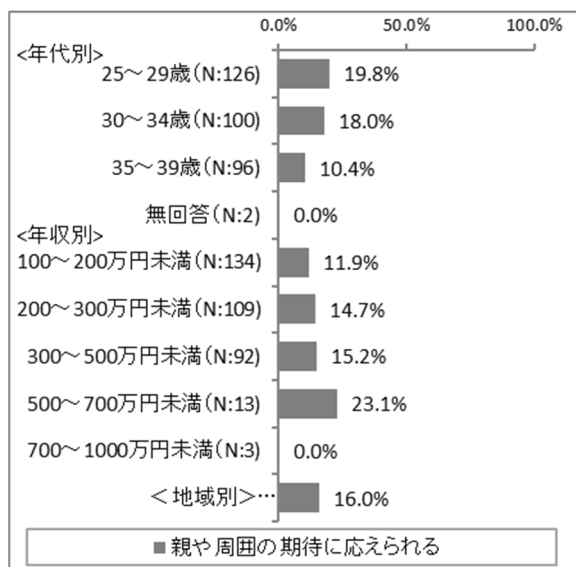
全体では、「子どもや家族を持てる」が64.0%、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」50.1%、「愛情を感じている人と暮らせる」48.8%、「人間として成長できる」35.6%が多くなっている。

① 男女別の傾向

「精神的な安らぎの場が得られる」、「人間として成長できる」は、男性の割合（各々58.4%、41.6%）で女性より、10ポイント以上多くなっている。一方で、「経済的に余裕が持てる」は男性が4.3%に対して女性は22.1%と18ポイント多くなっている。

・結婚することの利点がある理由（年代別・年収別）





## ② 年代別の傾向

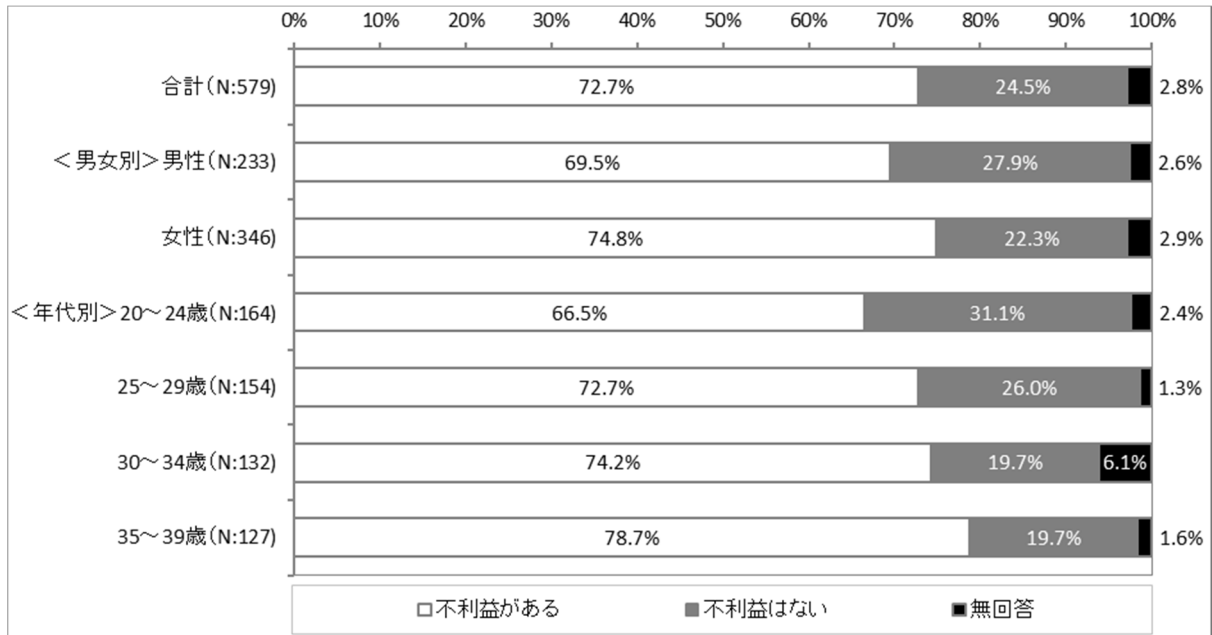
「愛情を感じている人と暮らせる」は、「20～24歳」が54.0%で他年代より6ポイント以上多くなっている。「精神的な安らぎの場が得られる」は、「25～29歳」で他年代より約6ポイント多くなっており、「人間として成長できる」は、「30～34歳」で約10ポイント多くなっている。

## ③ 年収別の傾向

「子どもや家族を持てる」は、「200～300万円未満」で72.5%と最も多くなっており、「精神的な安らぎの場が得られる」は、「700～1000万円未満」、「200～300万円未満」の割合（各々66.7%、63.3%）が多くなっている。「人間として成長できる」は、「700～1000万円未満」が66.7%で最も多く、他の年収は30%台となっている。

問23. 結婚することの不利益はどのようなことだと思いますか。  
 不利益がある場合は「不利益がある」に○を記入し、その理由を3つ記入してください。  
 不利益がない場合は「不利益はない」に○を記入してください。

・結婚することの不利益



全体では、「不利益がある」72.7%、「不利益はない」24.5%となっている。

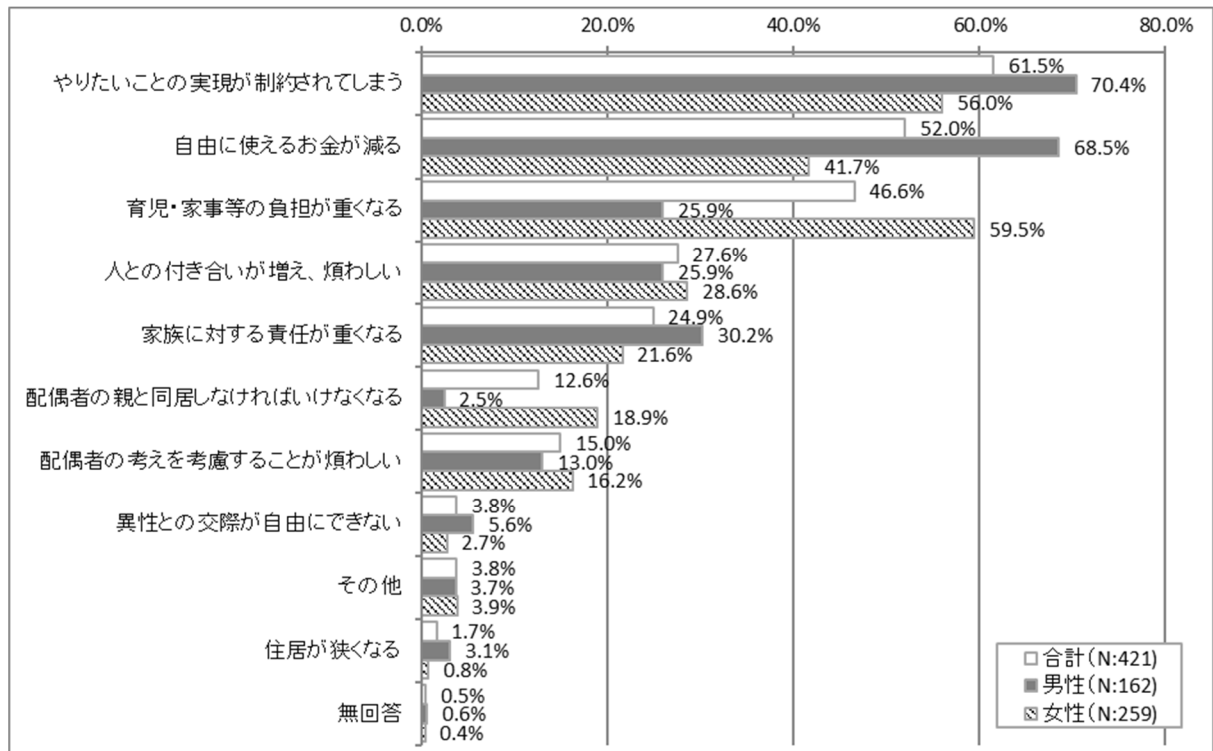
① 男女別の傾向

「不利益がある」は男性が69.5%、女性が74.8%で女性の方が多くなっており、「不利益はない」は男性27.9%、女性22.3%となっている。

② 年代別の傾向

「不利益がある」は年代が上がるにつれて多くなり、「35～39歳」で78.7%と最も多く、「不利益はない」は年代が下がるにつれて多くなり「20～24歳」が31.1%となっている。

・結婚することの不利益がある理由（合計・男女別）

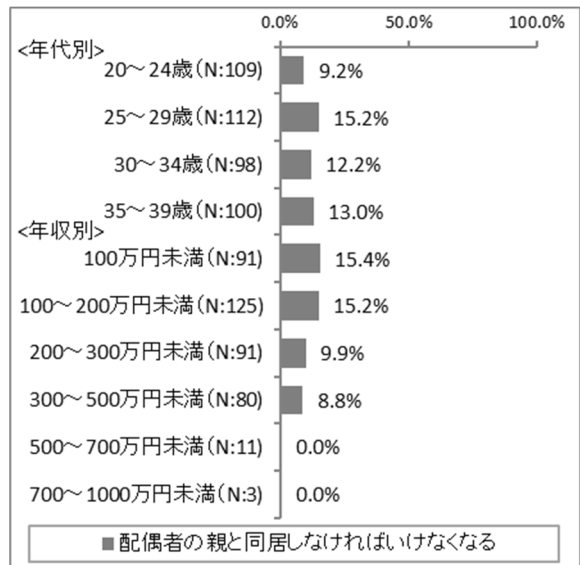
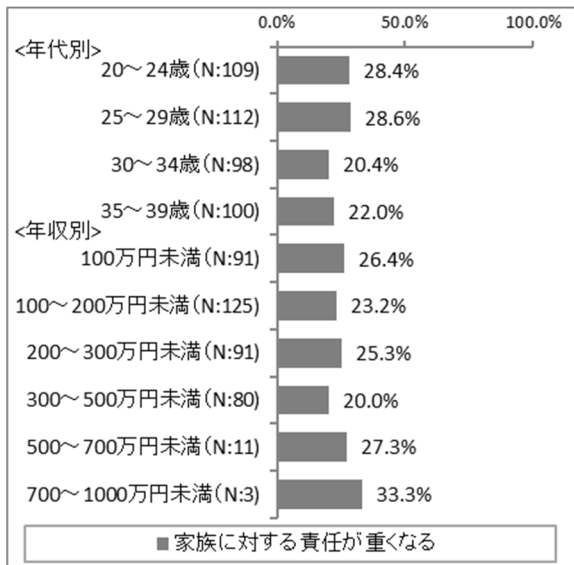
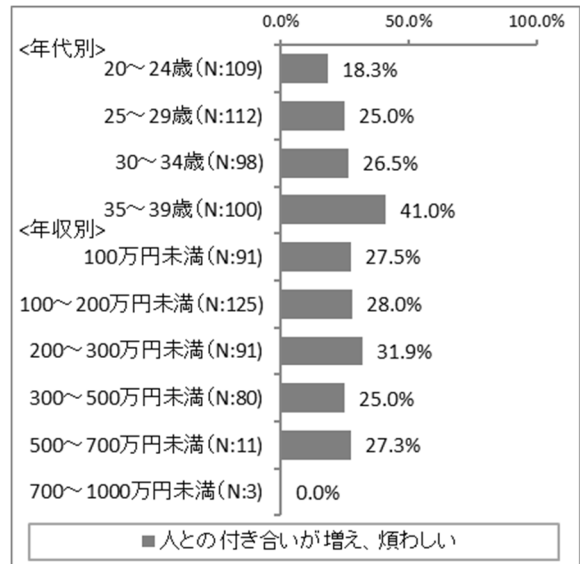
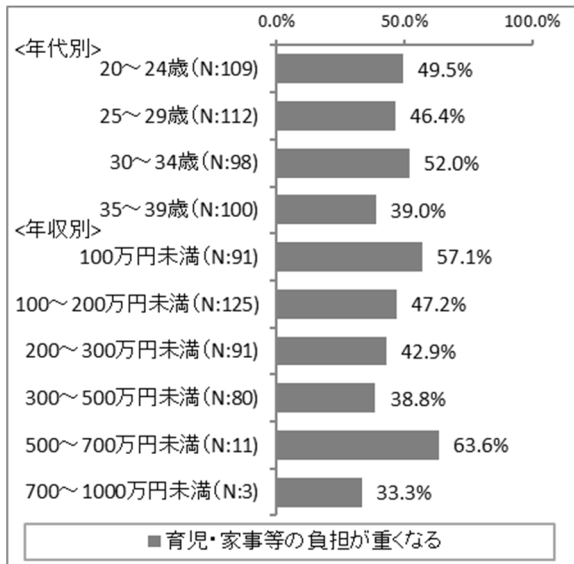
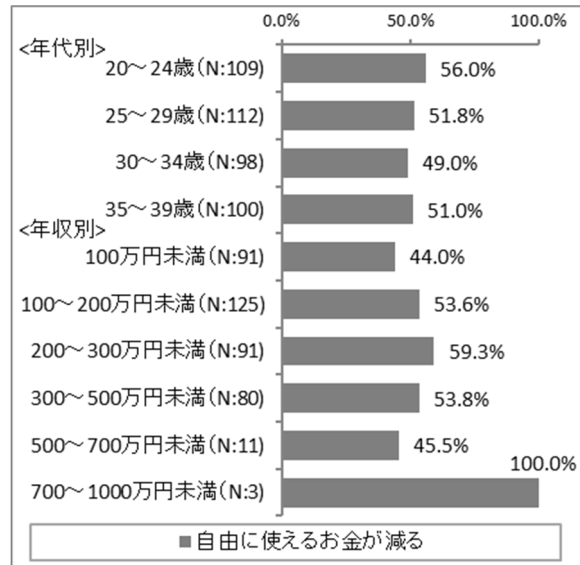
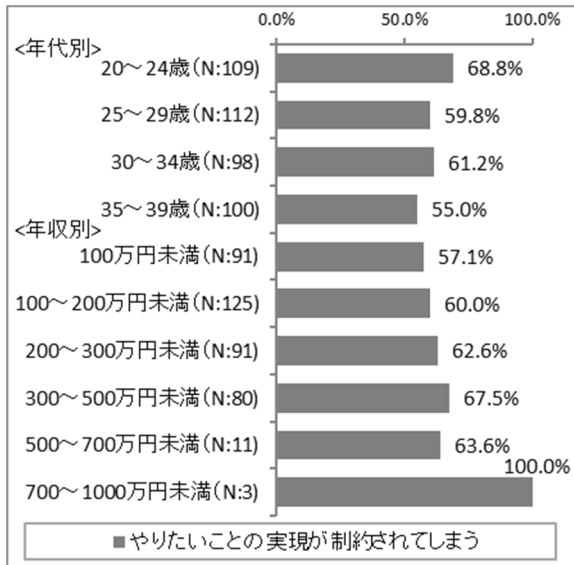


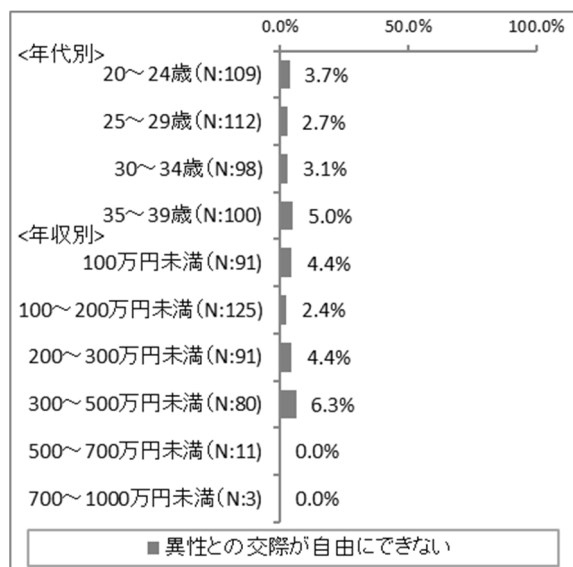
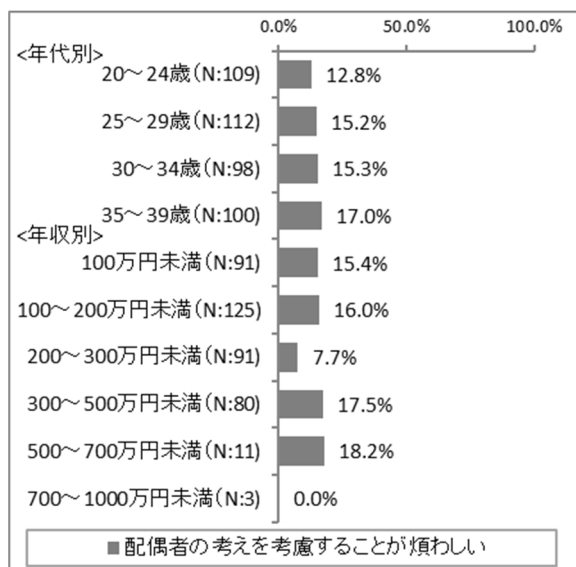
全体では、「やりたいことの実現が制約されてしまう」が61.5%、次いで「自由に使えるお金が減る」52.0%、「育児・家事等の負担が重くなる」46.6%、「人との付き合いが増え、煩わしい」27.6%、「家族に対する責任が重くなる」24.9%が多くなっている。

① 男女別の傾向

「やりたいことの実現が制約されてしまう」は男性が70.4%、女性が56.0%で男性の方が14ポイント多く、「自由に使えるお金が減る」は、男性が68.5%、女性が41.7%で男性の方が27ポイント多くなっている。一方で、「育児・家事等の負担が重くなる」は、男性25.9%に対し女性が59.5%で女性の方が34ポイント多くなっている。

・結婚することの不利益がある理由（年代別・年収別）





## ② 年代別の傾向

20歳代は上位3項目の順位は全体と同じだが、「家族に対する責任が重くなる」が「20～24歳」28.4%、「25～29歳」28.6%で「人との付き合いが増え、煩わしい」より多くなっている。

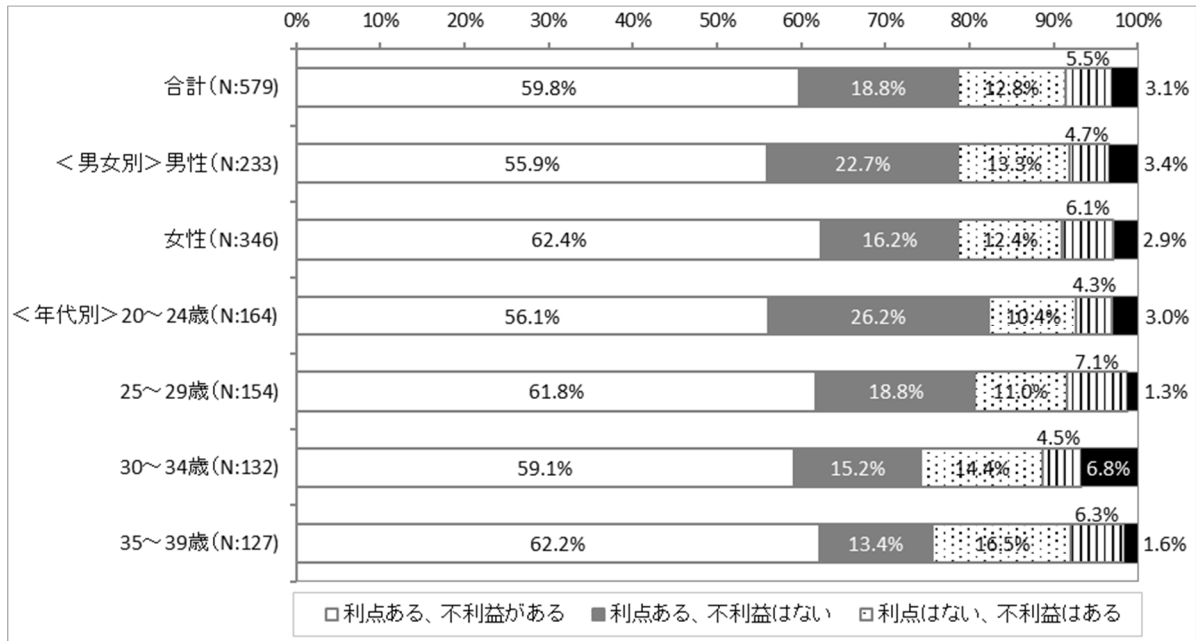
また、「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「自由に使えるお金が減る」は、「20～24歳」の割合（各々68.8%、56.0%）が他年代より多くなっている。「育児・家事等の負担が重くなる」は、「30～34歳」で52.0%が他年代より多く、「人との付き合いが増え、煩わしい」では、「35～39歳」が41.0%となっており、他年代より14ポイント以上多くなっている。

## ③ 年収別の傾向

「やりたいことの実現が制約されてしまう」、「自由に使えるお金が減る」は、「700～1000万円未満」で100.0%となっている。「育児・家事等の負担が重くなる」は、「500～700万円未満」が63.6%、「人との付き合いが増え、煩わしい」が「300～500万円未満」で31.9%と多くなっている。「配偶者の親と同居しなければいけない」は、年収が下がるにつれて多くなって「100万円未満」が15.4%と最も多くなっている。



・結婚することの利点と不利益の相関関係



全体では、「利点ある、不利益がある」が59.8%と最も多く、次いで「利点ある、不利益はない」18.8%、「利点はない、不利益はある」12.8%、「利点はない、不利益はない」が5.5%となっている。

① 男女別の傾向

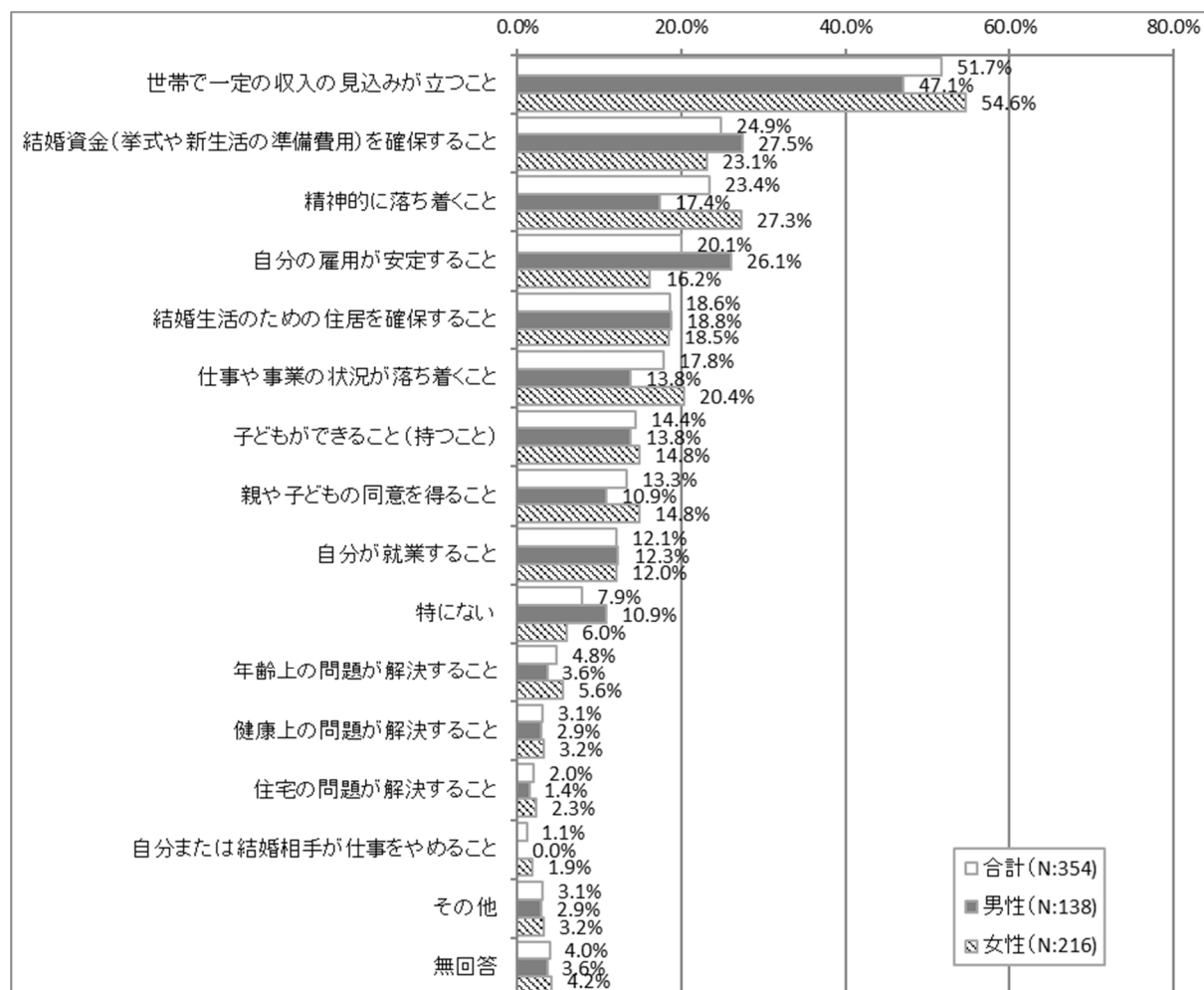
「利点ある、不利益がある」は男性が55.9%、女性が62.4%で女性の方が6ポイント多く、「利点ある、不利益はない」は、男性が22.7%、女性が16.2%で男性の方が7ポイント多くなっている。

② 年代別の傾向

「利点ある、不利益はない」は、「20～24歳」が26.2%で最も多く、年代が下がるにつれ多くなっている。一方で、「利点はない、不利益はある」は、「35～39歳」が16.5%で最も多く、年代が上がるにつれ多くなっている。

問24. 結婚したいと思っている方にお聞きします。あなたが結婚を考える際に、条件となることはありますか。結婚するために重要な条件であると思われるものを教えてください。(3つまで)

・結婚するための条件（合計・男女別）



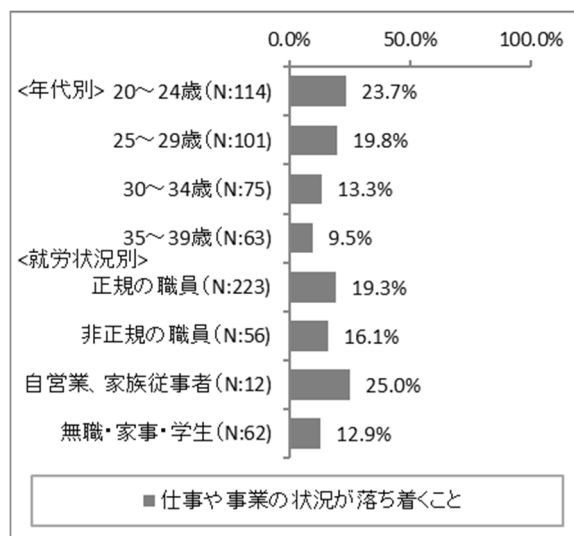
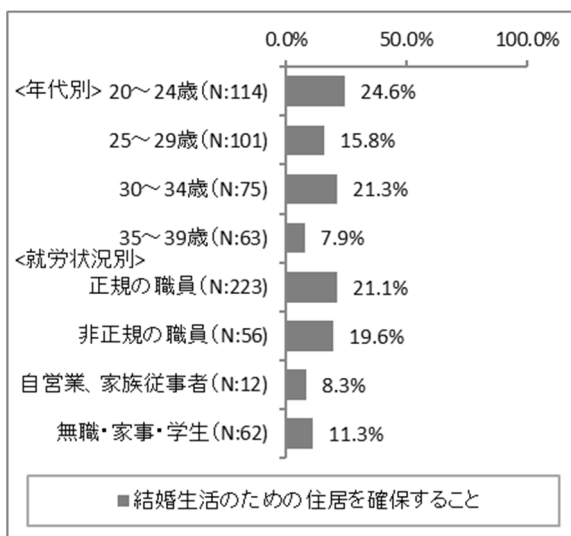
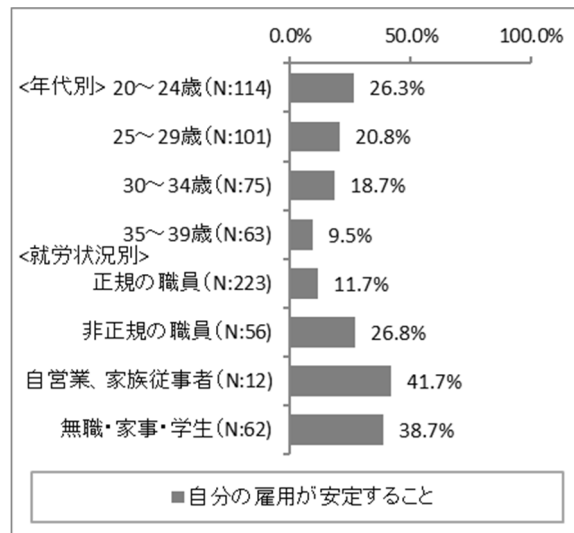
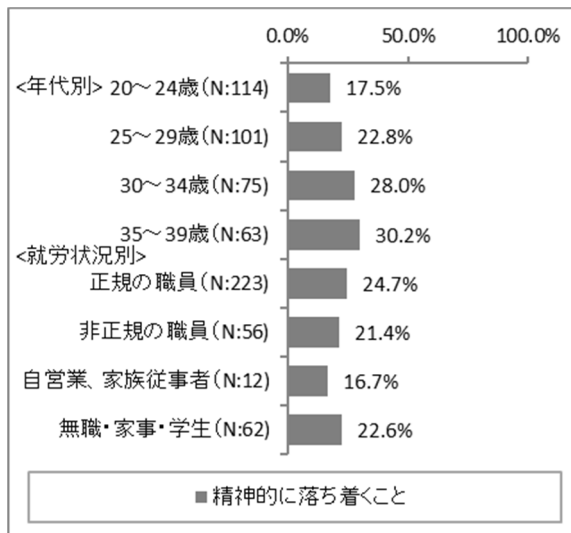
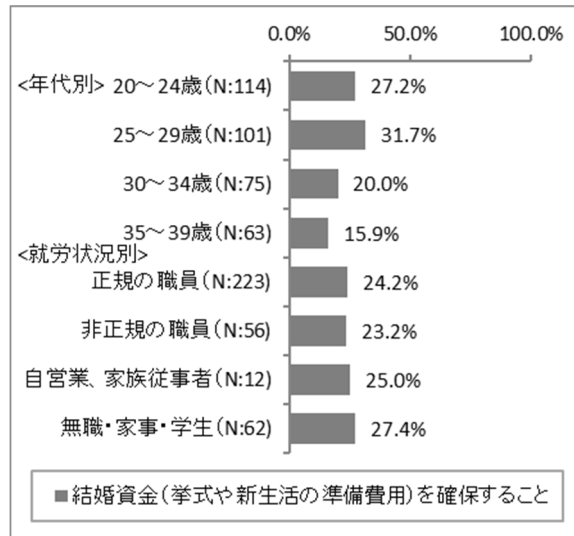
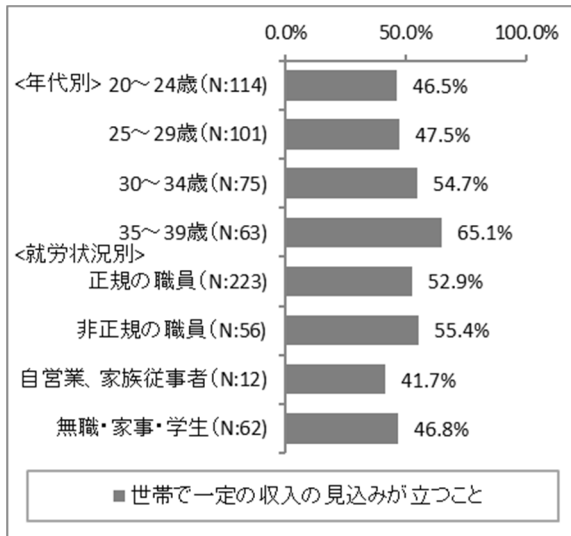
全体では、「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」が 51.7%と最も多く、次いで「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」24.9%、「精神的に落ち着くこと」23.4%、「自分の雇用が安定すること」20.1%となっている。

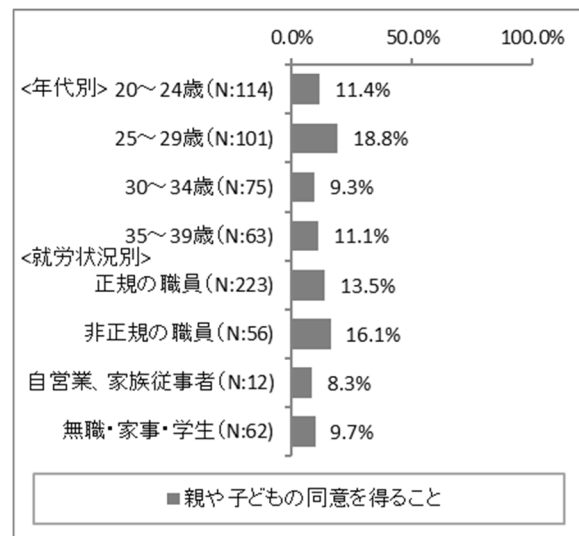
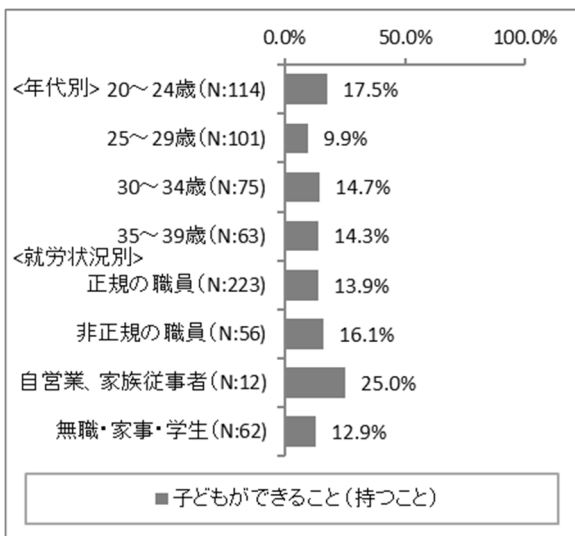
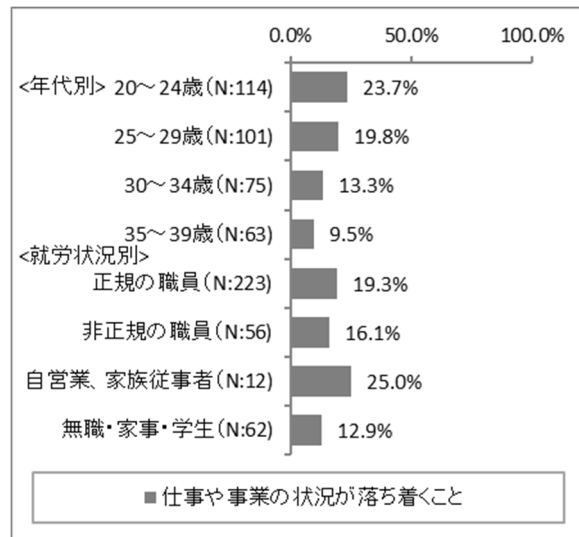
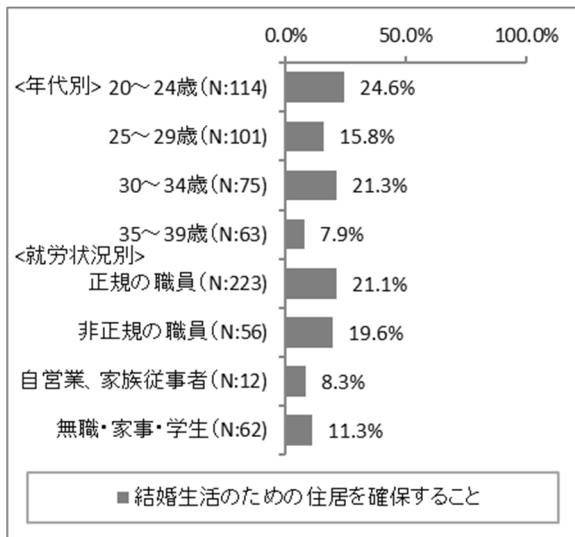
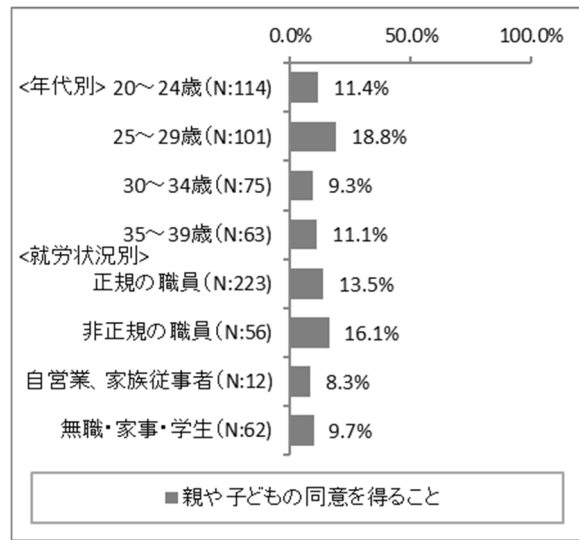
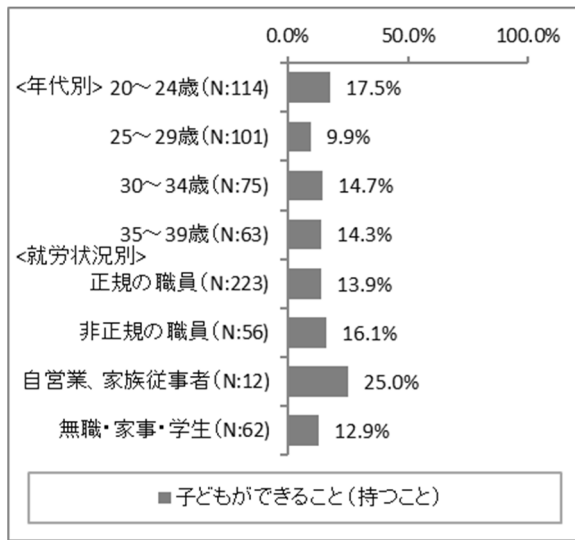
① 男女別の傾向

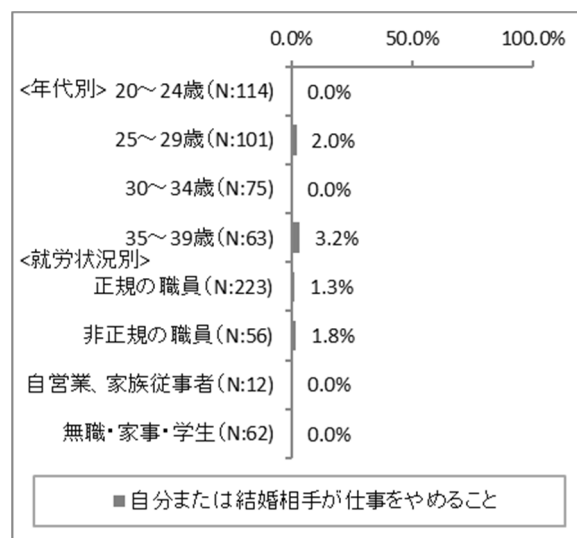
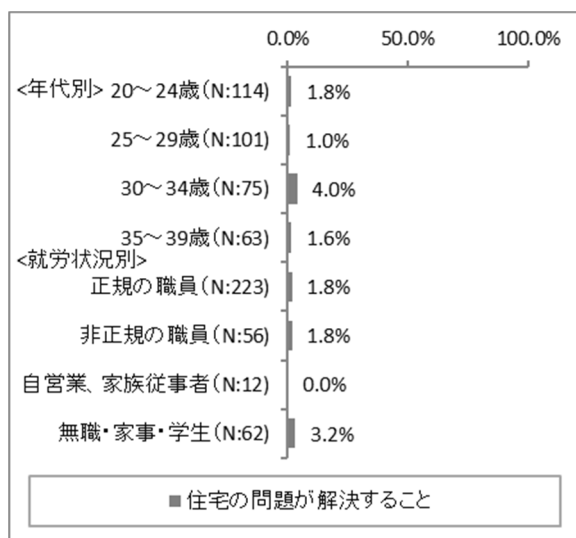
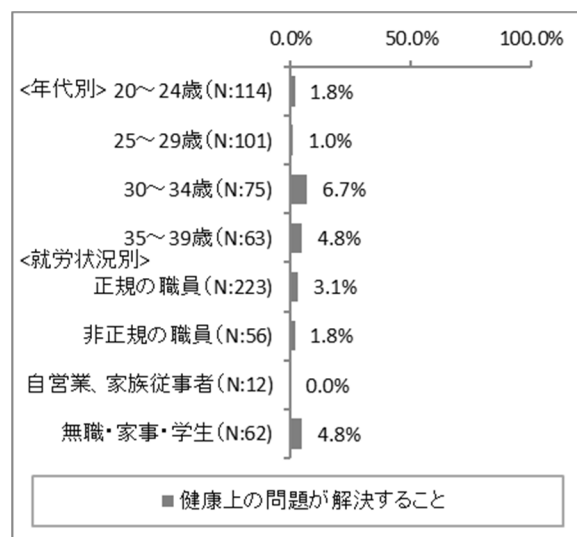
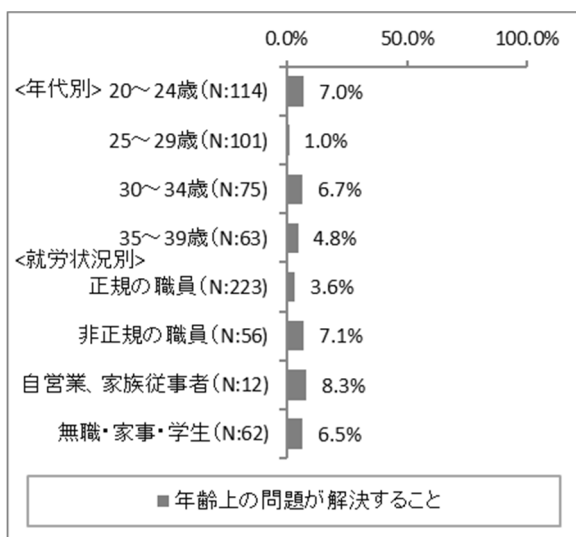
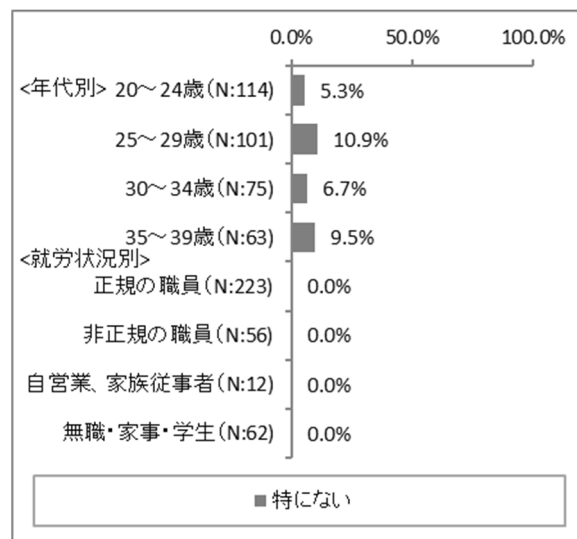
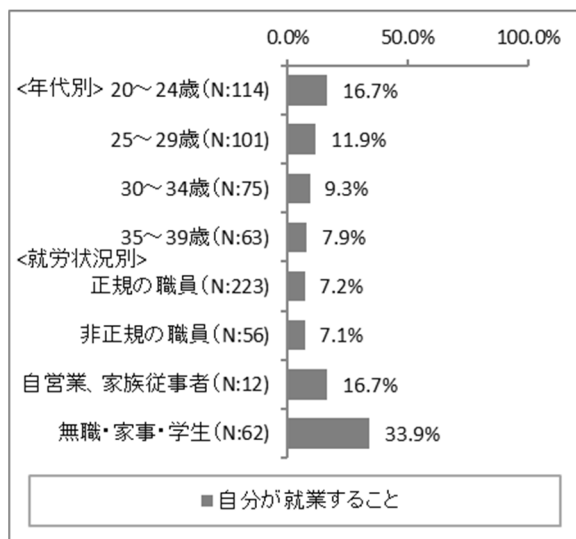
「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は男性が 47.1%、女性が 54.6%で女性の方が 8 ポイント、「精神的に落ち着くこと」は男性が 17.4%、女性 27.3%で女性の方が 10 ポイント、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」は男性が 13.8%、女性が 20.4%で女性の方が 6 ポイント多くなっている。

「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」は、男性が 27.5%、女性が 23.1%で男性の方が 5 ポイント、「自分の雇用が安定すること」は、男性が 26.1%、女性が 16.2%で男性の方が 10 ポイント多くなっている。

・結婚するための条件（年代別・就労状況別）







## ② 年代別の傾向

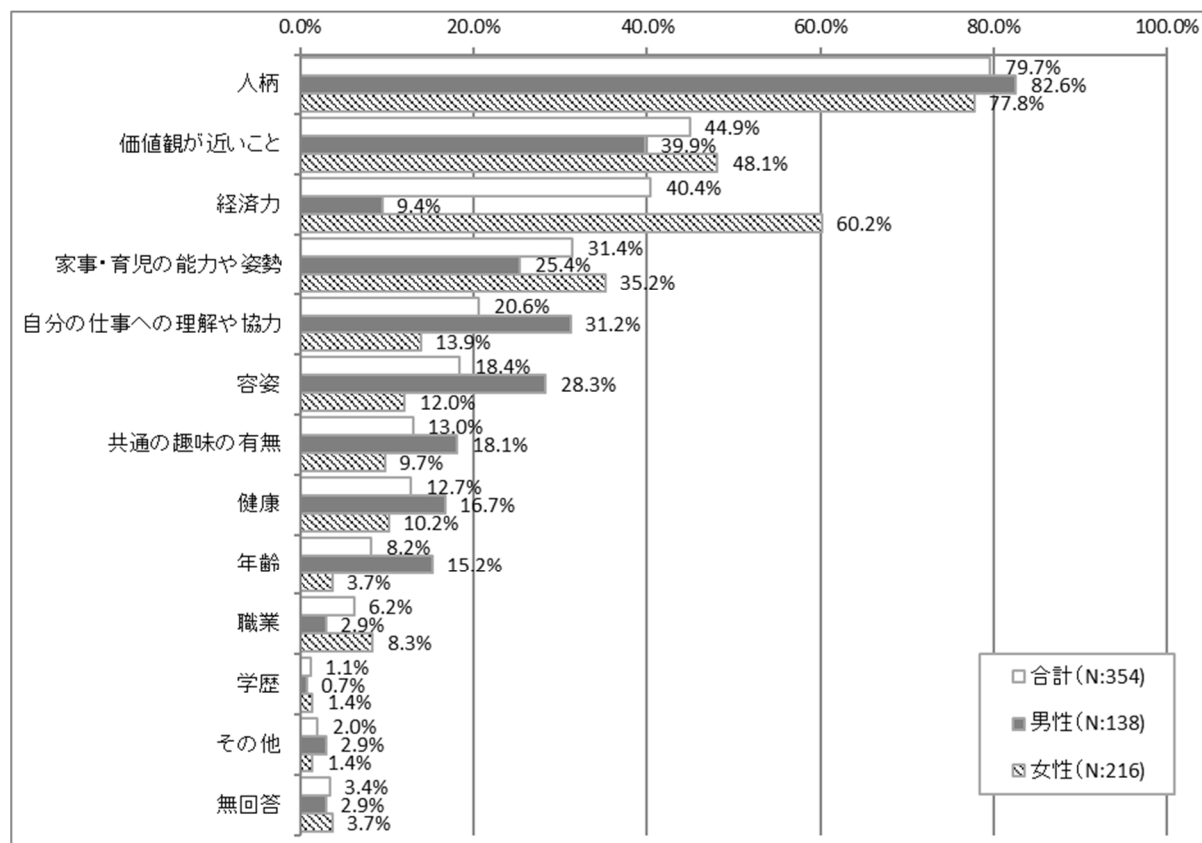
「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」、「精神的に落ち着くこと」は、「35～39歳」の割合（各々65.1%、30.2%）で最も多く、年代が上がるにつれ多くなっている。「自分の雇用が安定すること」、「仕事や事業の状況が落ち着くこと」は、「20～24歳」の割合（各々26.3%、23.7%）が最も多く、年代が下がるにつれ多くなっている。

## ③ 就業状況別の傾向

「世帯で一定の収入の見込みが立つこと」は、「正規の職員」が、52.9%、「非正規の職員」55.4%、「結婚資金（挙式や新生活の準備費用）を確保すること」は、「正規の職員」が、24.2%、「非正規の職員」23.2%で大きな差は見られない。「自分の雇用が安定すること」は、「正規の職員」が11.7%に対して他の就業状況では、「非正規の職員」26.8%、「自営業、家族従事者」41.7%と多くなっている。

問25. 結婚したいと思っている方にお聞きします。  
結婚相手に求める条件をお答えください。(3つまで)

・結婚相手に求める条件（合計・男女別）



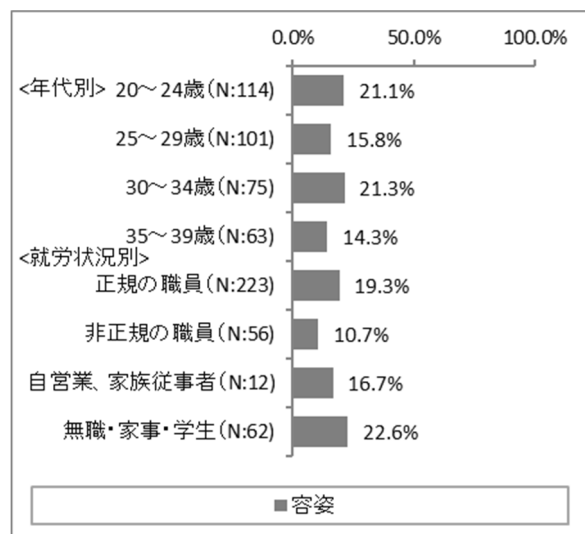
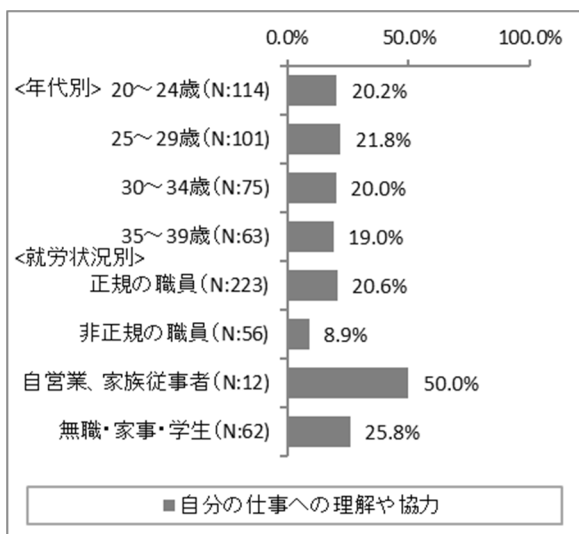
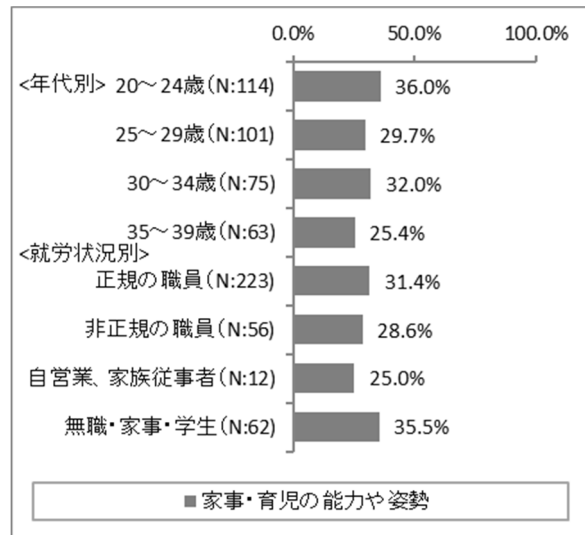
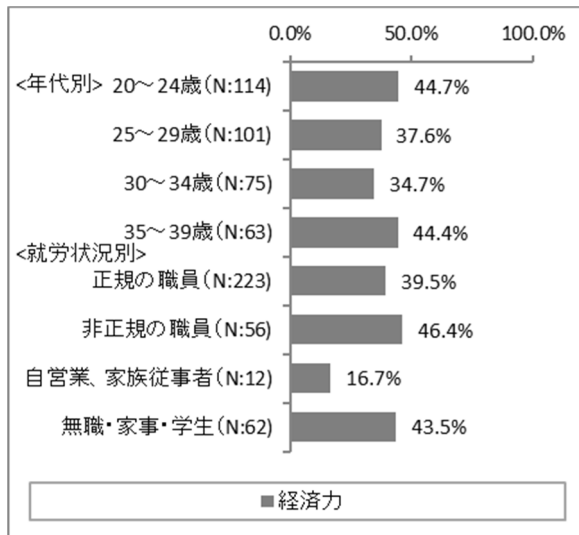
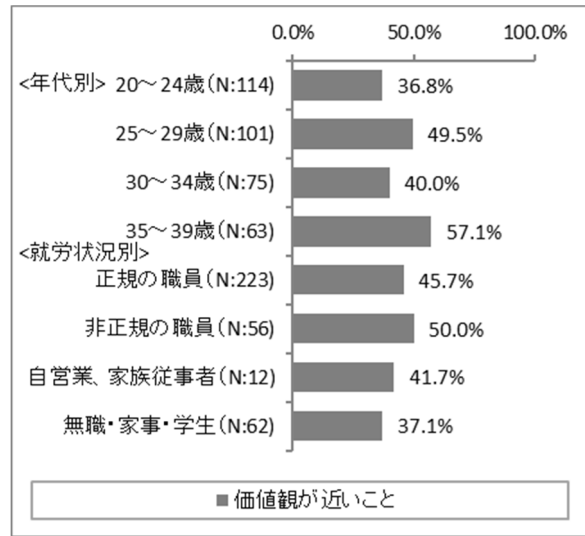
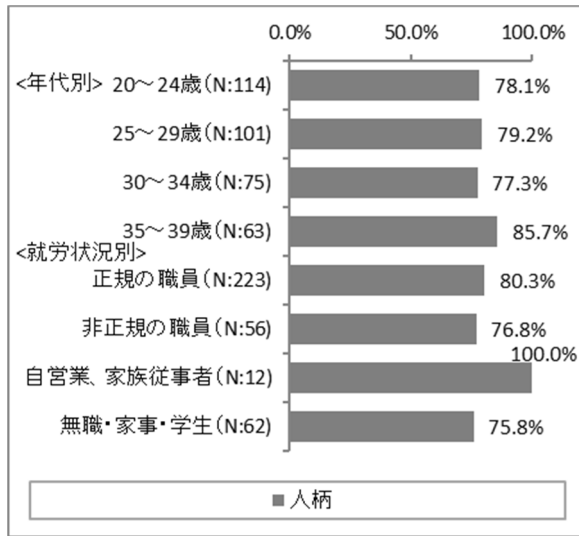
全体では、「人柄」が79.7%と最も多く、次いで「価値観が近いこと」44.9%、「経済力」40.4%、「家事・育児の能力や姿勢」31.4%、「自分の仕事への理解や協力」20.6%となっている。

① 男女別の傾向

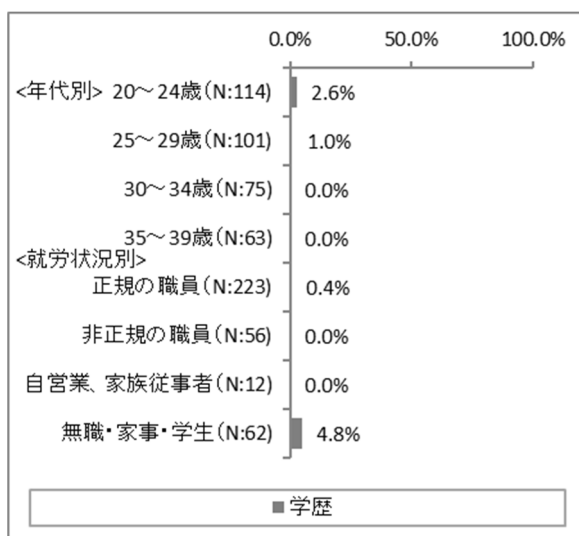
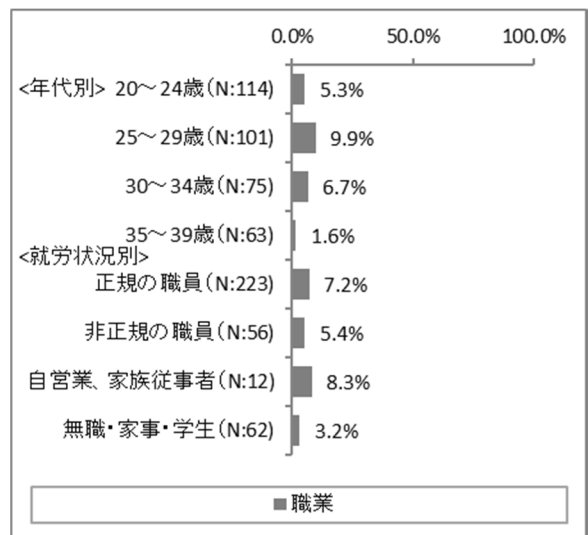
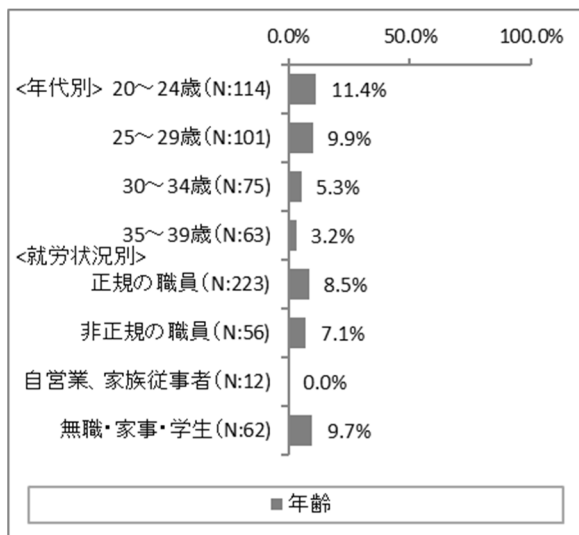
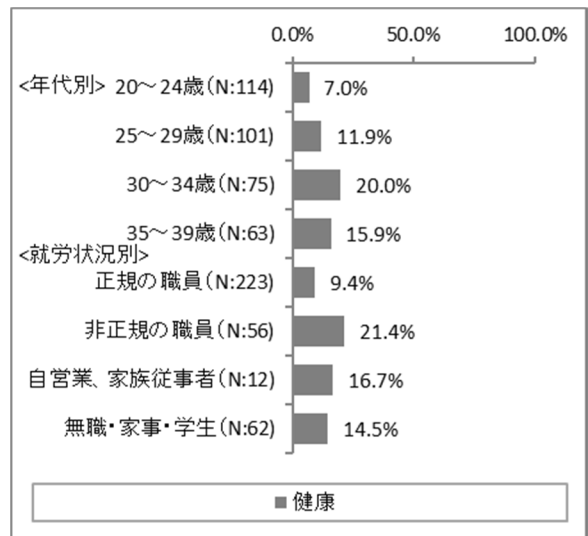
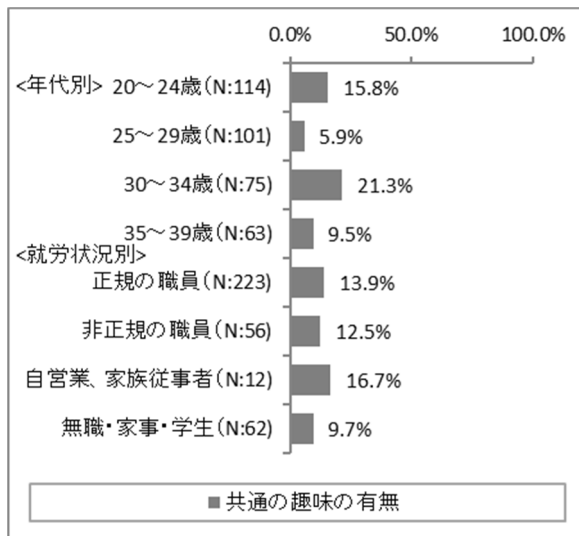
男性と女性では全体の順位と違いが見られる。男性は「人柄」82.6%、「価値観が近いこと」39.9%の順位は変わらないが、3位以降で「自分の仕事への理解や協力」31.2%、「容姿」28.3%、「家事・育児の能力や姿勢」25.4%に対して、女性は「人柄」77.8%、「経済力」60.2%、「価値観が近いこと」48.1%、「家事・育児の能力や姿勢」35.2%、「自分の仕事への理解や協力」13.9%となっている。

また、男性が女性より多くなっている項目は、「自分の仕事への理解や協力」が17ポイント、「容姿」が16ポイント、「年齢」が15.2%で11ポイントと差がある。一方で、女性が多くなっている項目は、「経済力」が男性の9.4%に対して60.2%となっており50ポイントの大きな差がある。また、「家事・育児の能力や姿勢」は女性が10ポイント多くなっている。

・結婚相手に求める条件（年代別・就労状況別）







## ② 年代別の傾向

「人柄」、「価値観が近いこと」は、「35～39歳」の割合（各々85.7%、57.1%）が最も多くなっている。特に「価値観が近いこと」は最も少ない「20～24歳」の36.8%と比較して20ポイントの差がある。「経済力」は、「20～24歳」が44.7%、「35～39歳」44.4%と多くなっており、「家事・育児の能力や姿勢」は、「20～24歳」が36.0%と多くなっている。

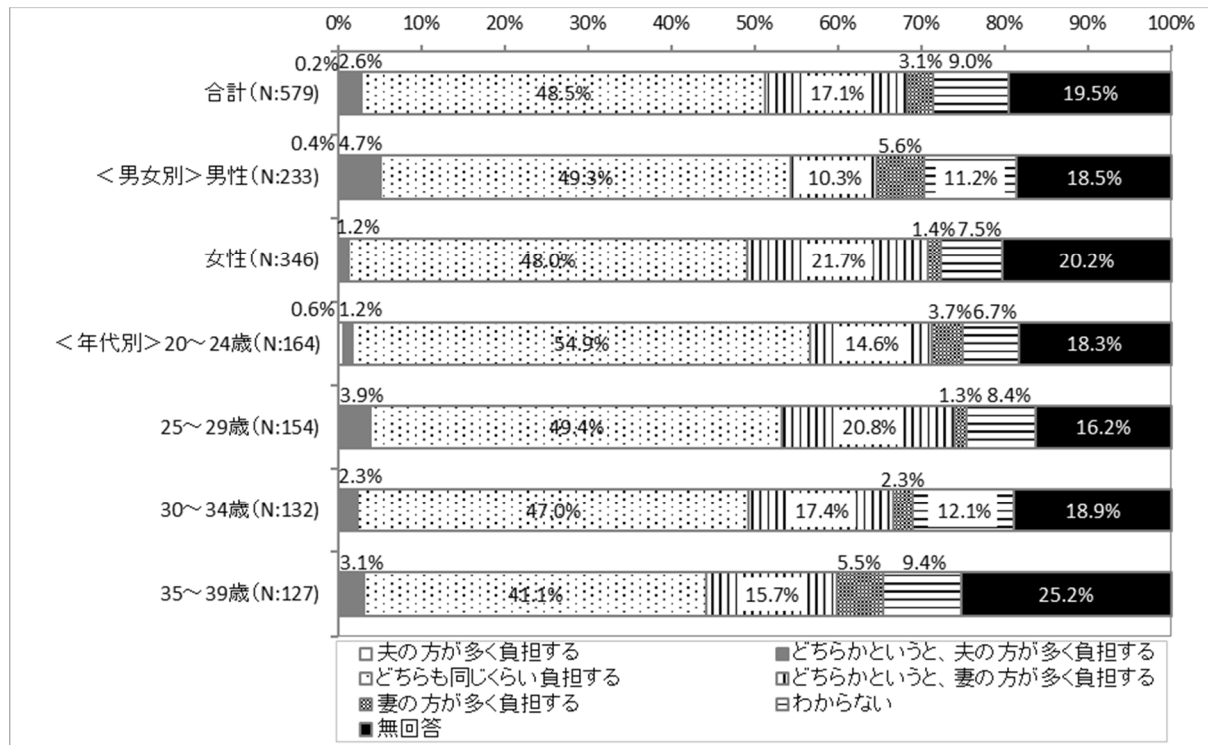
## ③ 就業状況別の傾向

「人柄」は、「自営業、家族従事者」で100.0%、「正規の職員」80.3%となっている。「経済力」は、「自営業、家族従事者」が16.7%で、他の就労状況の割合（40%以上）と比べて少なくなっている。「自分の仕事への理解や協力」は、「自営業、家族従事者」が50.0%となっており、最も少ない「非正規の職員」の割合（8.9%）と41ポイントの大きな差が見られる。

## 5. 結婚生活に関する意識

問26. あなたは、夫婦間で家事や育児の負担がどのようにあるべきか、お答えください。(一つ)

### ・夫婦間での家事・育児の負担



全体では、「どちらも同じくらい負担する」が48.5%と約半数となっている。「夫の方が多く負担する」、「どちらかという、夫の方が多く負担する」の合計で2.8%、「どちらかという、妻の方が多く負担する」、「妻の方が多く負担する」の合計では20.2%となっている。

結婚を望まない場合は、「無回答」となっている。

#### ① 男女別の傾向

「どちらも同じくらい負担する」は男性49.3%、女性48.0%、「どちらかという、夫の方が多く負担する」は男性4.7%、女性1.2%で男性の方が多くなっている。どちらかという、妻の方が多く負担する」は、男性10.3%、女性21.7%で女性の方が多くなっているが、「妻の方が多く負担する」は、男性5.6%、女性1.4%で男性の方が多くなっている。

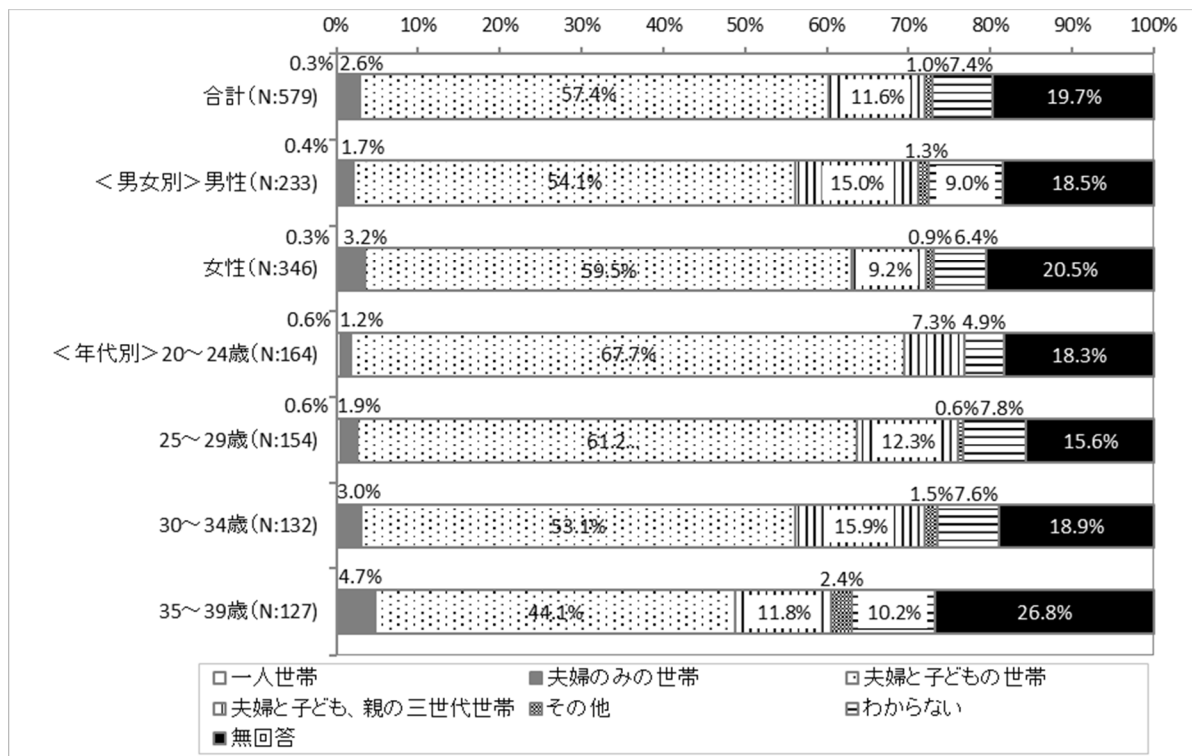
「どちらかという、妻の方が多く負担する」、「妻の方が多く負担する」の合計では、男性15.9%、女性23.1%と女性の方が7ポイント多くなっている。

#### ② 年代別の傾向

「どちらも同じくらい負担する」は、「20~24歳」が54.9%で最も多くなっており、年代が下がるにつれて多くなっている。「どちらかという、妻の方が多く負担する」、「妻の方が多く負担する」の合計では、「20~24歳」18.3%、「25~29歳」22.1%、「30~34歳」19.7%、「35~39歳」21.2%と各年代とも20%前後が妻の方が負担するとなっている。

問27. あなたにとって、理想的な家族の形態をお答えください。(一つ)

・理想的な家族形態



全体では、「夫婦と子どもの世帯」が最も多く 57.4%となっている。次いで「夫婦と子ども、親の三世代世帯」11.6%、「夫婦のみの世帯」2.6%となっている。

結婚を望まない場合は、「無回答」となっている。

① 男女別の傾向

「夫婦と子どもの世帯」は、男性 54.1%、女性 59.5%、「夫婦のみの世帯」は男性 1.7%、女性 3.2%で女性の方が多くなっている。「夫婦と子ども、親の三世代世帯」は、男性 15.0%、女性 9.2%で男性の方が多くなっている。

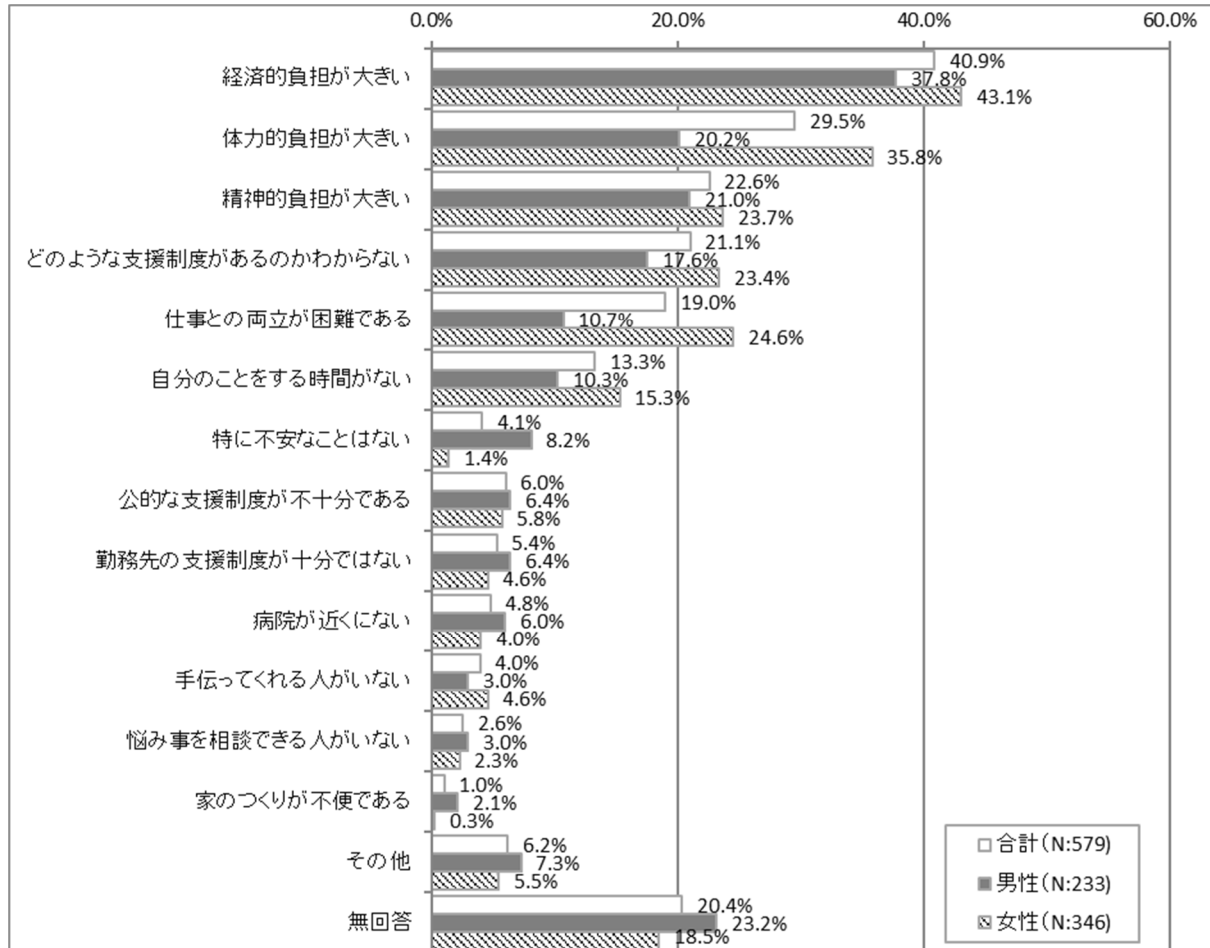
② 年代別の傾向

「夫婦と子どもの世帯」は、「20～24歳」が 67.7%で最も多くなっており、「35～39歳」が 44.1%と年代が下がるにつれて多くなっている。「夫婦と子ども、親の三世代世帯」は「30～34歳」が 15.9%と多く、「夫婦のみの世帯」は、「35～39歳」4.7%で年代が上がるにつれて多くなっている。

## 6. 妊娠・出産に関する意識

問28. あなた(又は将来の配偶者)が出産時(又は将来の出産に向けて)不安に思うことをお答えください(3つまで)

### ・将来の出産時の不安(合計・男女別)

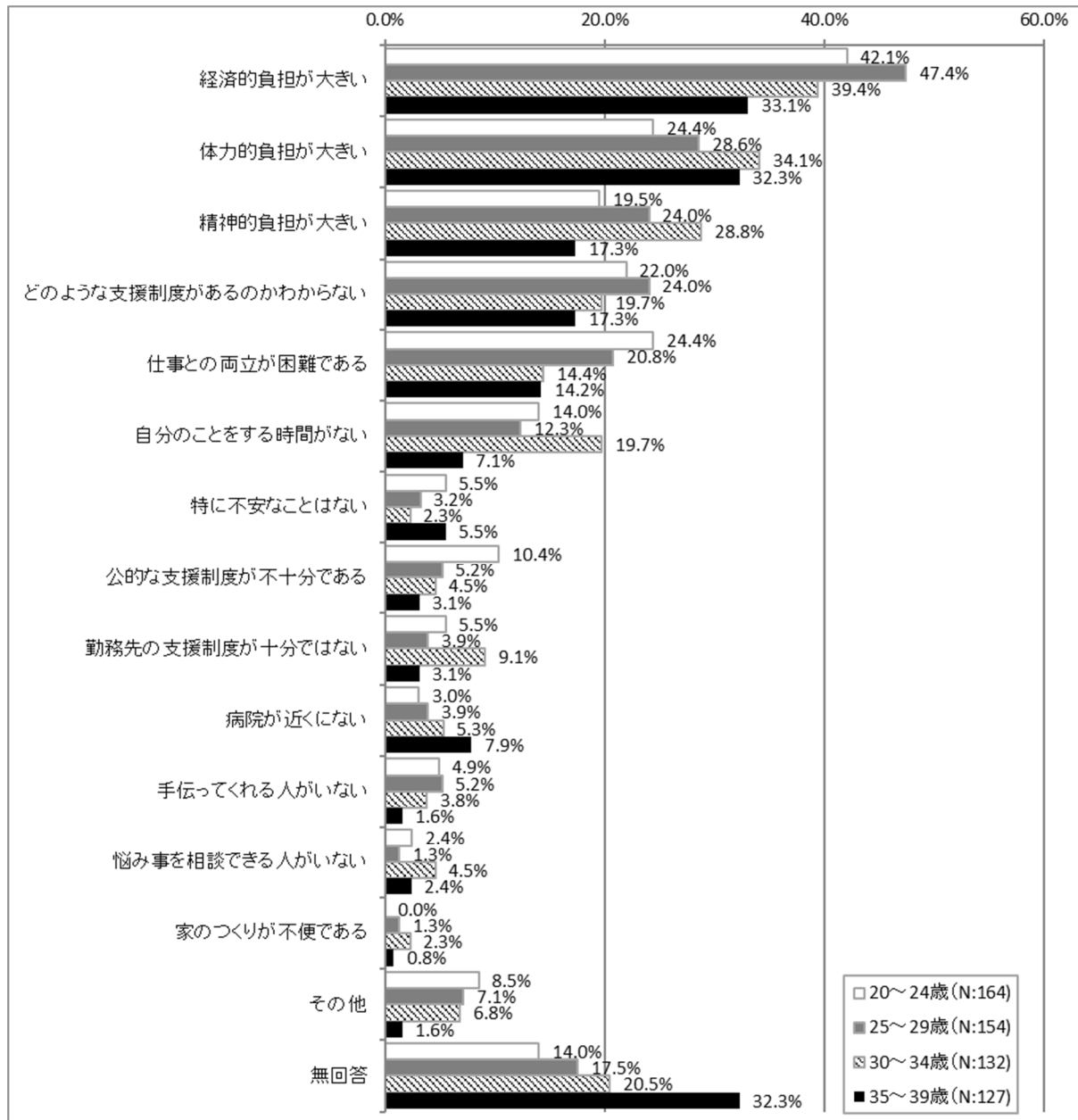


全体では、「経済的負担が大きい」が40.9%で最も多く、次いで「体力的負担が大きい」29.5%、「精神的負担が大きい」22.6%、「どのような支援制度があるのかわからない」21.1%、「仕事との両立が困難である」が19.0%となっている。

#### ① 男女別の傾向

「経済的負担が大きい」、「体力的負担が大きい」、「精神的負担が大きい」、「どのような支援制度があるのかわからない」の上位項目はいずれも女性の割合(各々43.1%、35.8%、23.7%、23.4%)が男性に比べて多くなっている。特に差が大きい項目は、「体力的負担が大きい」が16ポイント、「仕事との両立が困難である」が14ポイント女性が多くなっている。

・将来の出産時の不安（年代別）

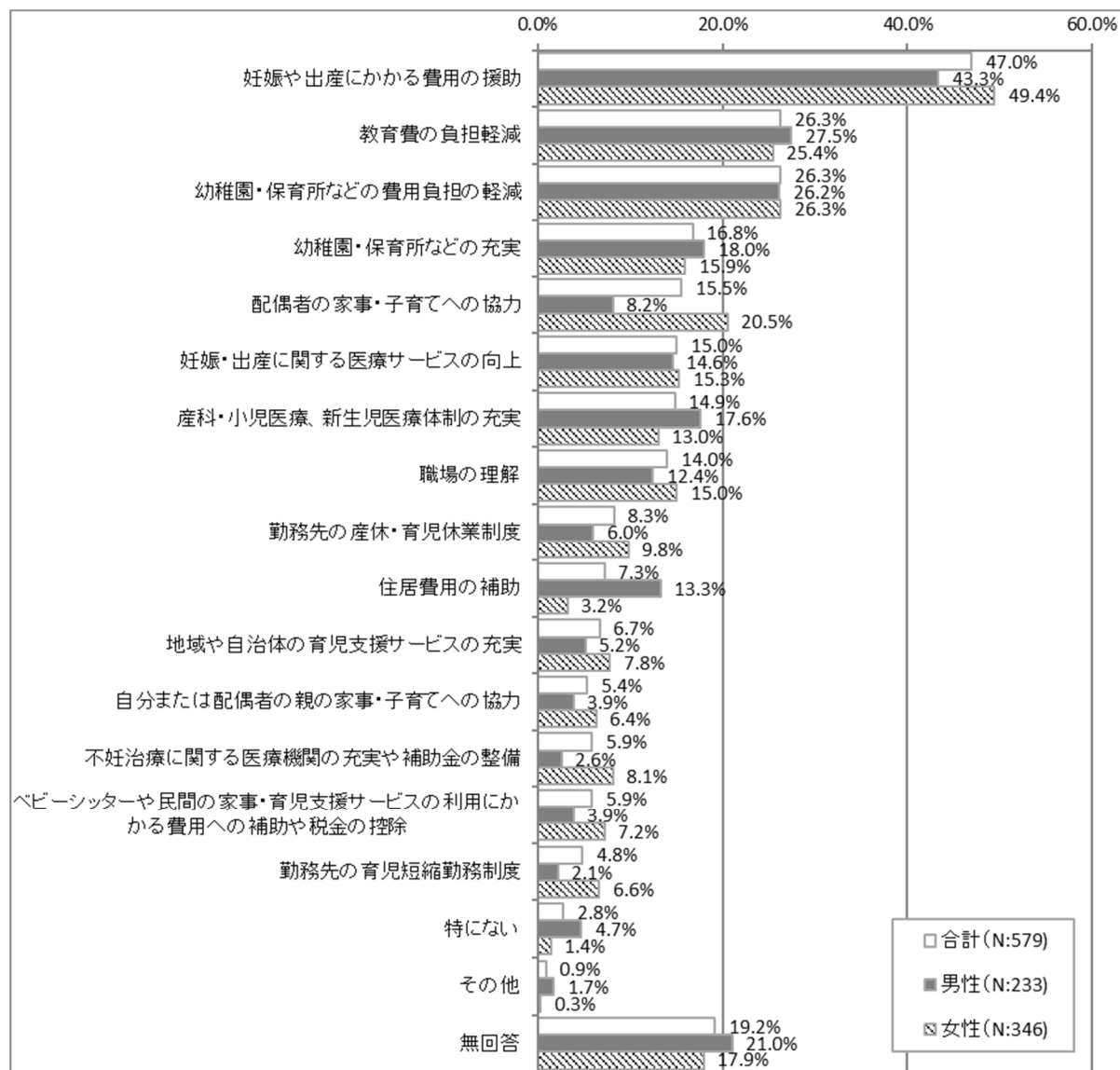


② 年代別の傾向

「経済的負担が大きい」は、「25～29歳」で47.4%と最も多く、「体力的負担が大きい」、「精神的負担が大きい」、「自分のことをする時間がない」は、「30～34歳」の割合（各々34.1%、28.8%、19.7%）が多くなっている。「どのような支援制度があるのかわからない」は「20～24歳」22.0%、「25～29歳」24.0%と20歳代で多くなっている。「仕事との両立が困難である」は「20～24歳」24.4%で最も多く、年代が下がるにつれて多くなっている。

問29. あなた(又は将来の配偶者)の出産及び子育てに必要と思うサポートについてお答えください(3つまで)

・将来の出産及び子育てに必要と思うサポート(合計・男女別)

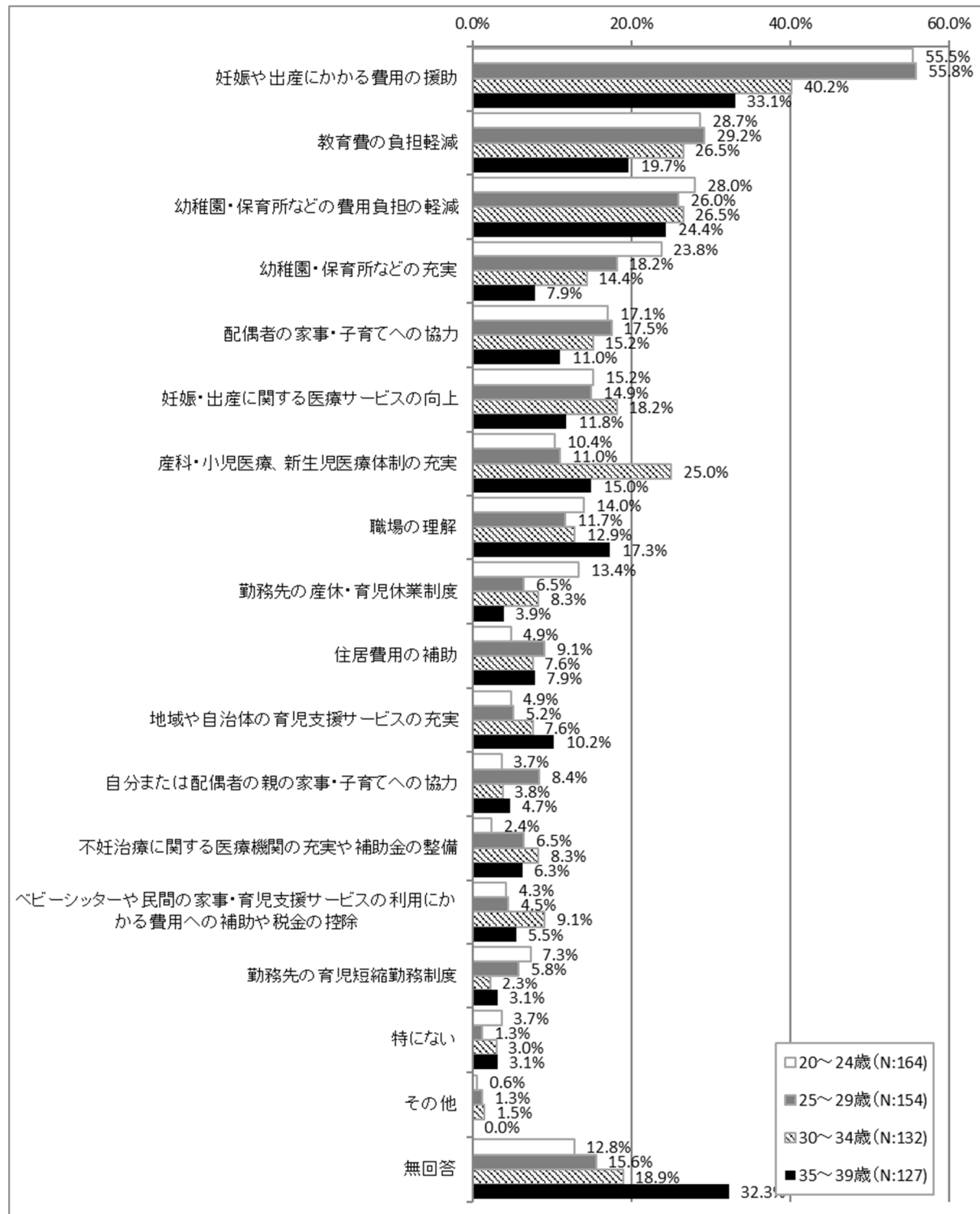


全体では、「妊娠や出産にかかる費用の援助」が47.0%、次いで「教育費の負担軽減」、「幼稚園・保育所などの費用負担の軽減」がともに26.3%、「幼稚園・保育所などの充実」16.8%、「配偶者の家事・子育てへの協力」15.5%、「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」15.0%、「産科・小児医療、新生児医療体制の充実」14.9%となっている。上位3項目は、妊娠から教育までの費用に関して、次に夫婦間の協力、医療に関する項目が多くなっている。

① 男女別の傾向

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は、男性が43.3%、女性が49.4%で6ポイント女性の方が多くなっている。また、特に差が大きい項目は、「配偶者の家事・子育てへの協力」は男性8.2%、女性20.5%で13ポイント女性が多く、「住居費用の補助」では、男性13.3%、女性3.2%で10ポイント男性が多くなっている。

・将来の出産及び子育てに必要と思うサポート（年代別）



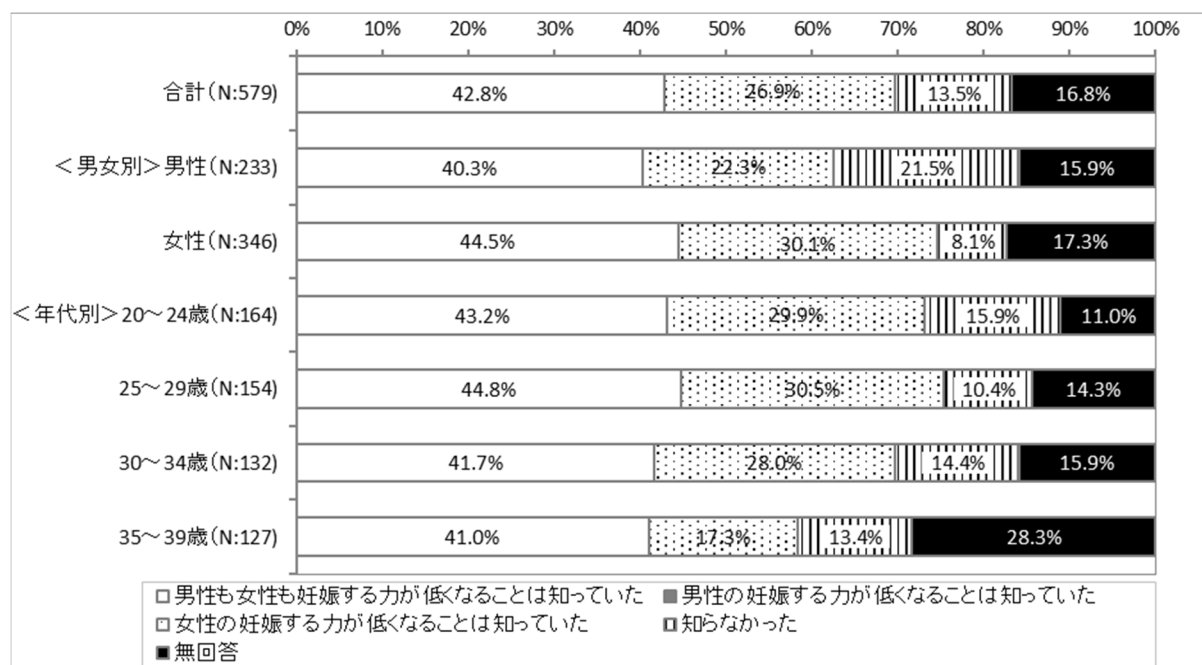


## ② 年代別の傾向

「妊娠や出産にかかる費用の援助」は、「20～24歳」が55.5%、「25～29歳」が55.8%で20歳代が多くなっており、「30～34歳」では40.2%となっている。「幼稚園・保育所などの費用負担の軽減」は、「20～24歳」28.0%、「教育費の負担軽減」は、「25～29歳」が29.2%、「配偶者の家事・子育てへの協力」は、「25～29歳」が17.5%と、20歳代が多くなっている。また、「妊娠・出産に関する医療サービスの向上」、「産科・小児医療、新生児医療体制の充実」は、「30～34歳」の割合（各々18.2%、25.0%）が多くなっている。

問30. 男性も女性も35歳を過ぎると様々な原因から妊娠率が低下するということを知っていますか(1つ)

・妊娠率の低下の認識



全体では、「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」が42.8%で最も多く、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」が26.9%、「知らなかった」は13.5%、「男性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は0%であった。

① 男女別の傾向

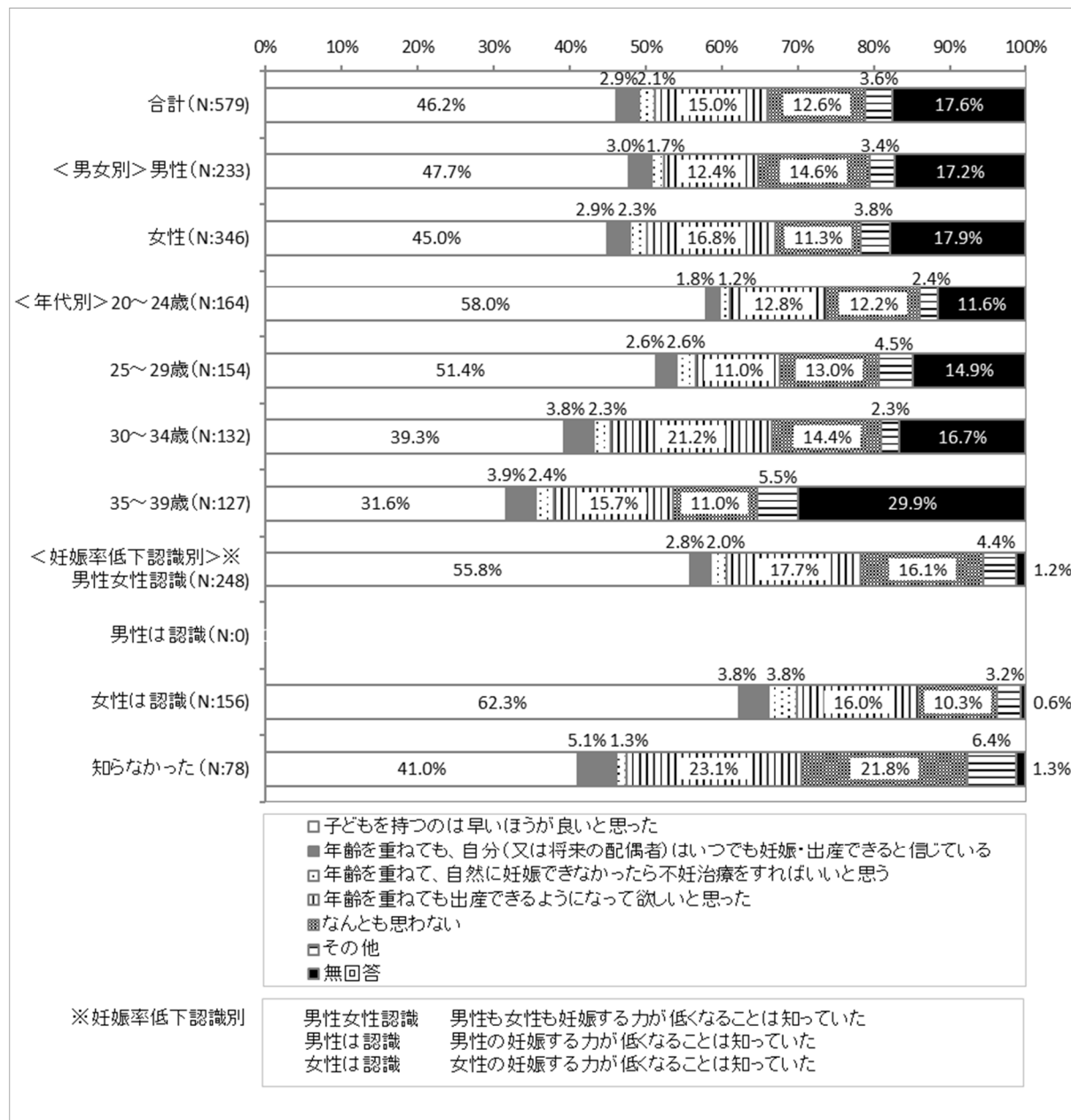
「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」は男性40.3%、女性44.5%、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は男性22.3%、女性30.1%でともに女性の方が多い。「知らなかった」は男性21.5%、女性8.1%で男性の方が多くなっている。

② 年代別の傾向

「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」、「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」は、「25～29歳」の割合（各々44.8%、30.5%）が多く、「知らなかった」は「20～24歳」が15.9%と多くなっている。

問31. 35歳を過ぎると妊娠率が低下することについてどう思いますか(1つ)

・妊娠率の低下について思うこと



全体では、「子どもを持つのは早いほうが良いと思った」が46.2%、次いで「年齢を重ねても出産できるようになって欲しいと思った」15.0%、「なんとも思わない」が12.6%となっている。なお、男女による大きな差は見られない。

### ① 年代別の傾向

「子どもを持つのは早いほうが良いと思った」は、「20～24歳」が58.0%で最も多く、年代が下がるにつれて多くなっており、最も少ない「35～39歳」の31.6%と26ポイントの差がある。

「年齢を重ねても出産できるようになって欲しいと思った」、「なんとも思わない」は、「30～34歳」の割合（各々21.2%、14.4%）が他年代より多くなっている。

### ② 妊娠率低下認識別の傾向

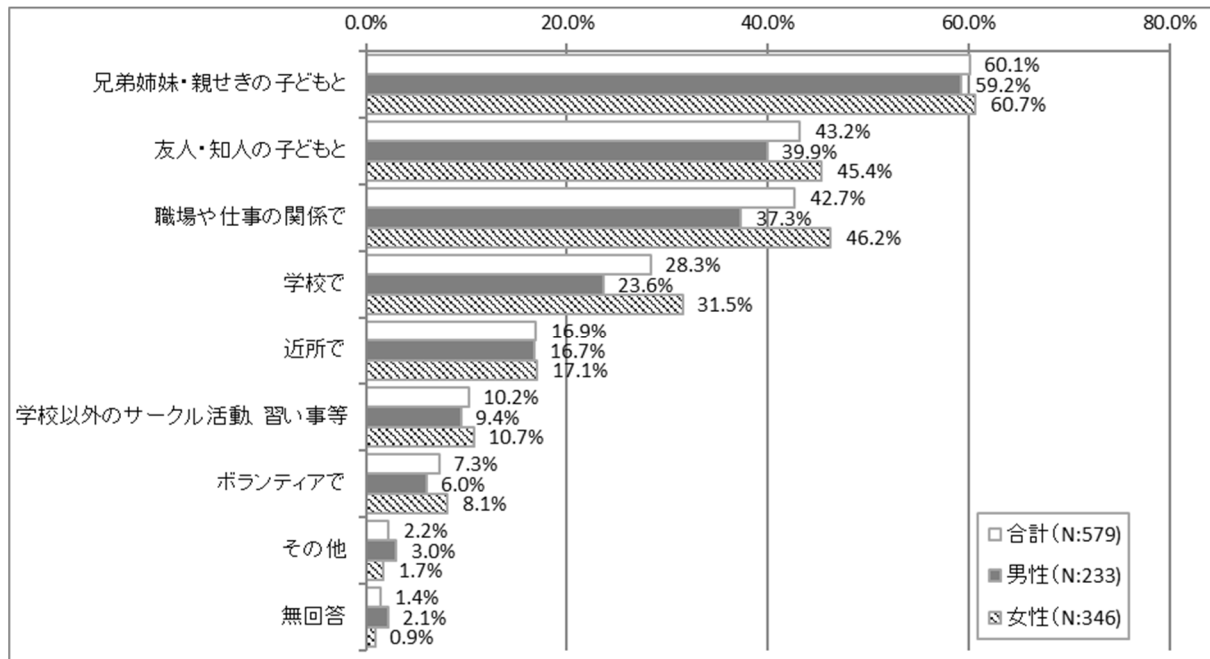
「子どもを持つのは早いほうが良いと思った」は、「男性も女性も妊娠する力が低くなることは知っていた」または「女性の妊娠する力が低くなることは知っていた」と回答した場合の割合（各々55.8%、62.3%）が、「知らなかった」と回答した場合の割合41.0%より多くなっている。

「なんとも思わない」は、妊娠率低下について「知らなかった」と回答した場合の割合21.8%が他回答より多くなっている。

## 7. 子どもに関する意識

問32. あなたの経験上で、どのような場面で子どもとの関わりがありましたか。自分より年齢が下の子どもと関わった場面についてお答えください(3つまで)

### ・経験上、子どもと関わった場面（合計・男女別）

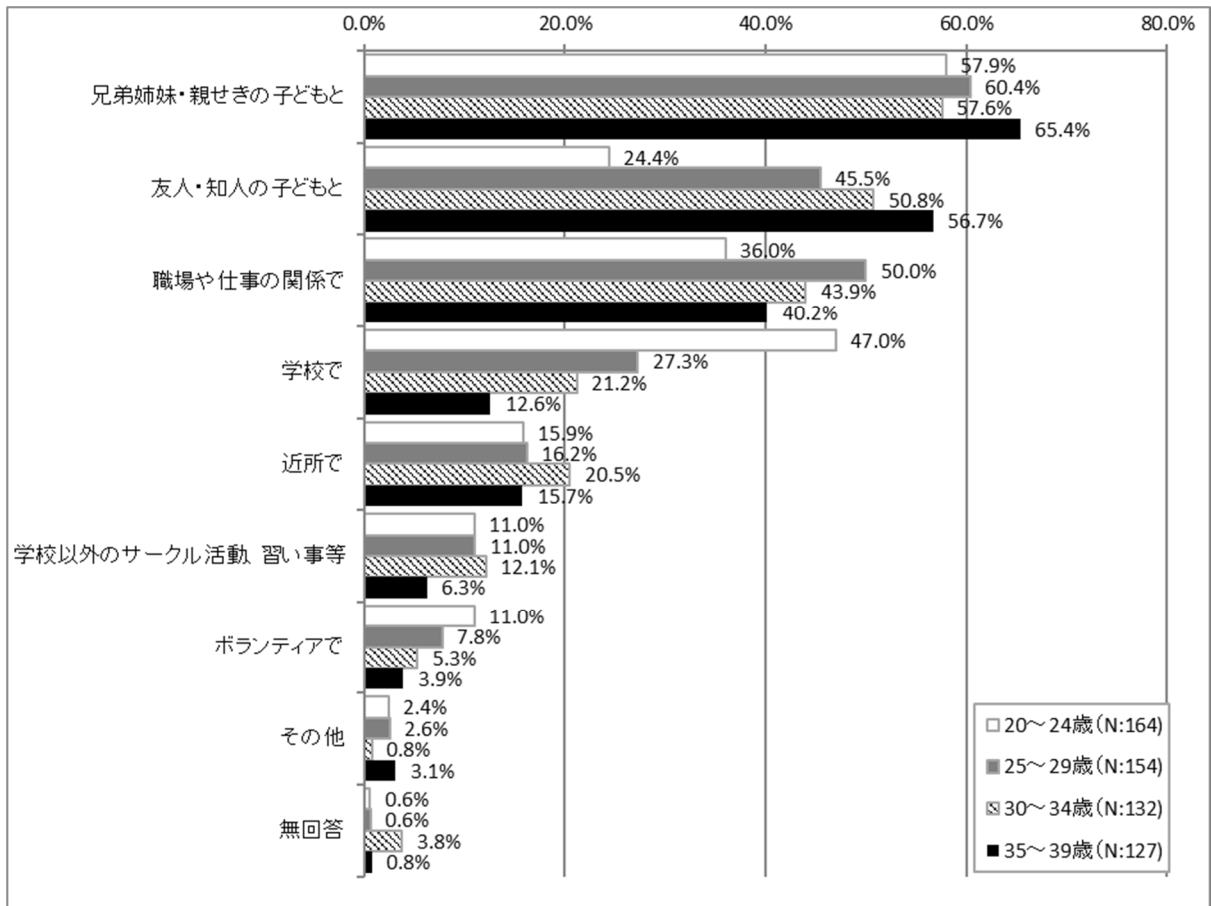


全体では、「兄弟姉妹・親せきの子どもと」が60.1%、次いで「友人・知人の子どもと」43.2%、「職場や仕事の関係で」42.7%、「学校で」が28.3%となっている。

#### ① 男女別の傾向

全体的に、女性が男性より多くなっており、女性の方が子ども関わる機会が多いと思われる。特に、「職場や仕事の関係で」は女性46.2%、男性37.3%、「学校で」は女性31.5%、男性23.6%となっている。

・経験上、子どもと関わった場面（年代別）

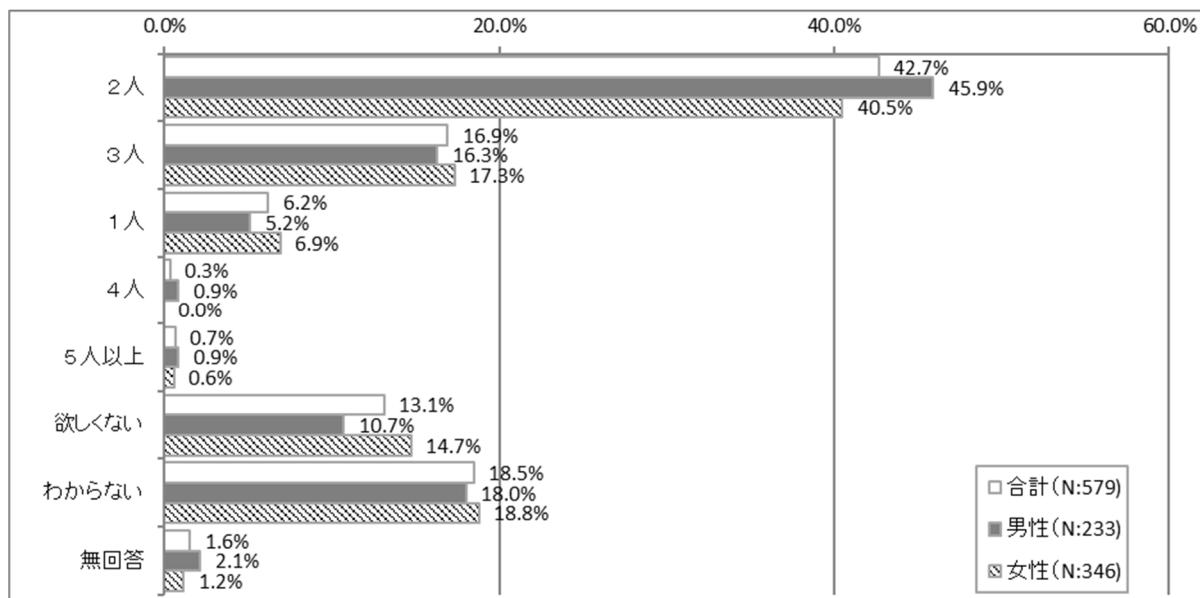


② 年代別の傾向

「兄弟姉妹・親せきの子ども」は、「35～39歳」が65.4%で最も多くなっている。「友人・知人の子ども」は「35～39歳」が56.7%最も多く、年代が上がるにつれ多くなっている。一方で、「学校で」は「20～24歳」が47.0%最も多く、年代が下がるにつれ多くなっている。

問33. あなたは、今後、何人の子どもが欲しいですか。現在、お子さんがいらっしゃる場合は、そのお子さんを含めないで人数をお答えください。同居・別居は問いません。(一つ)

・欲しい子どもの人数（合計・男女別）

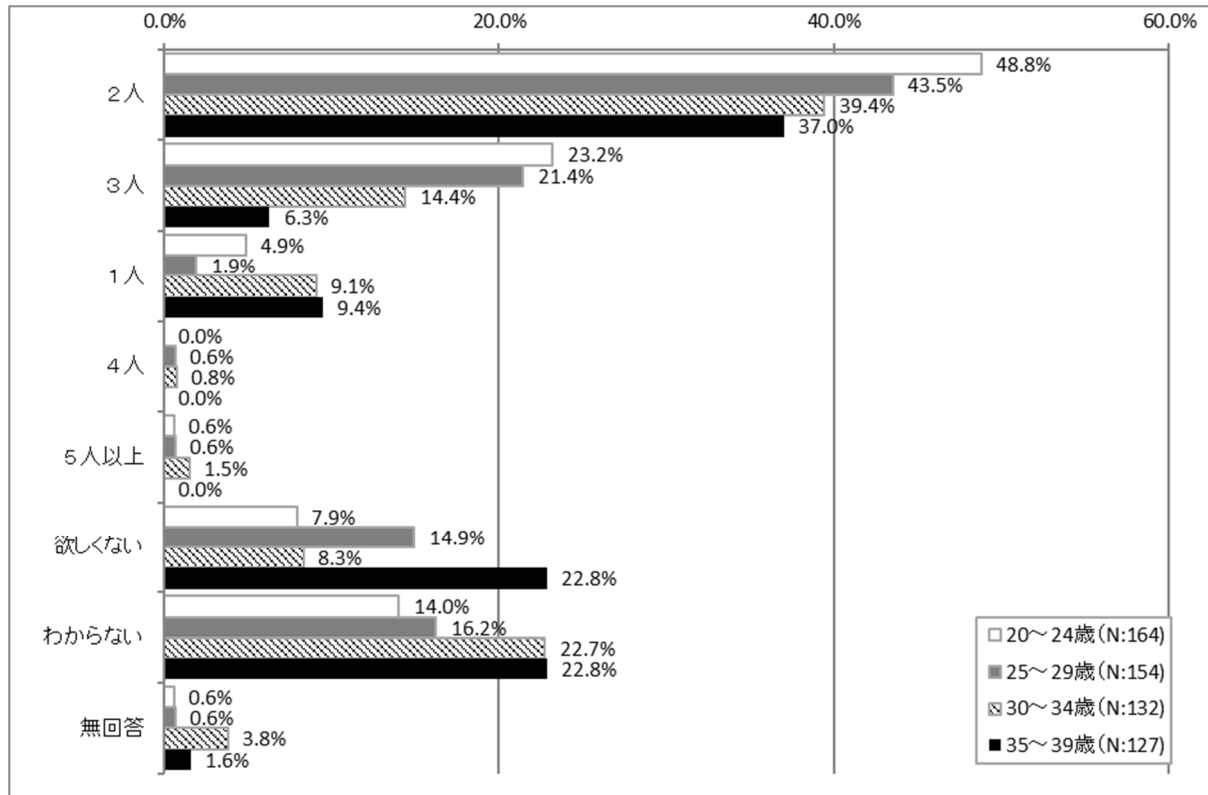


全体では、「2人」が42.7%、次いで「3人」が16.9%、「わからない」が18.5%、「欲しくない」が13.1%、「1人」が6.2%となっている。

① 男女別の傾向

「2人」は、男性45.9%、女性40.5%で男性が多くなっている。他の項目については大きな差は見られない。また、「1人」～「5人以上」と回答した合計（子どもが欲しい）は、男性69.1%、女性65.3%で男性が4ポイント女性より多くなっている。

・欲しい子どもの人数（年代別）



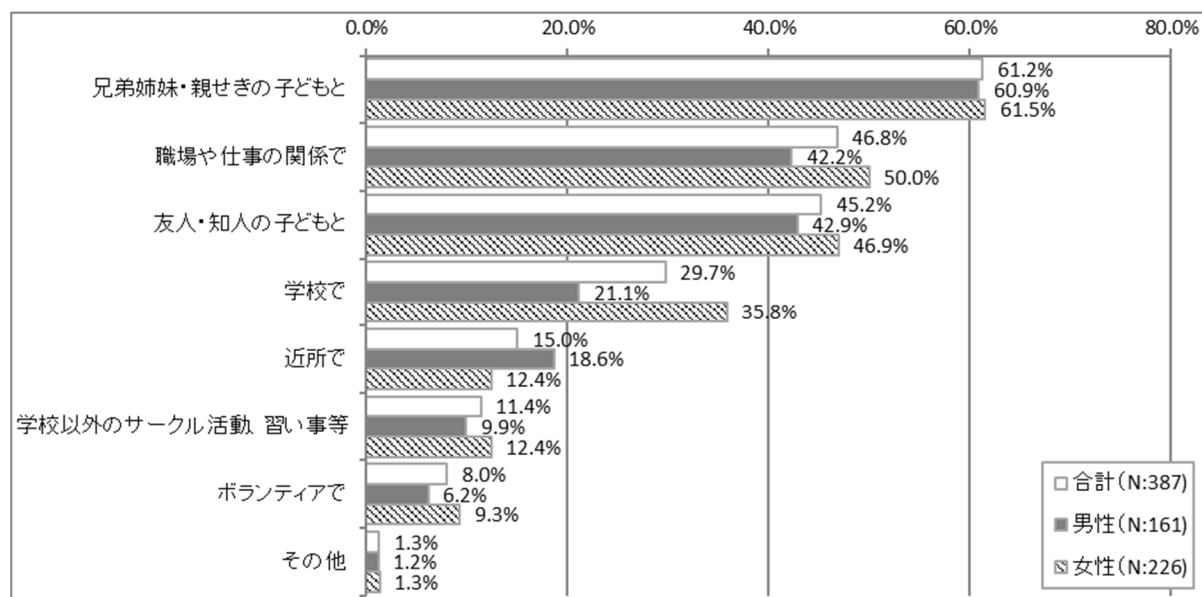
② 年代別の傾向

「2人」は、「20~24歳」が48.8%で最も多くなっており、年代が下がるにつれて多くなっている。「3人」も同様に、「20~24歳」が23.2%で最も多くなっており、年代が下がるにつれて多くなっている。一方で、「1人」、「わからない」、「欲しくない」は、「35~39歳」の割合（各々9.4%、22.8%、22.8%）が最も多くなっている。

また、「1人」~「5人以上」と回答した合計（子どもが欲しい）は、「20~24歳」77.4%、「25~29歳」68.2%、「30~34歳」65.2%、「35~39歳」52.8%となっており、年代が下がるにつれ子どもが欲しい割合は多くなっている。



・子どもを欲しい人が子どもと関わった場面（合計・男女別）

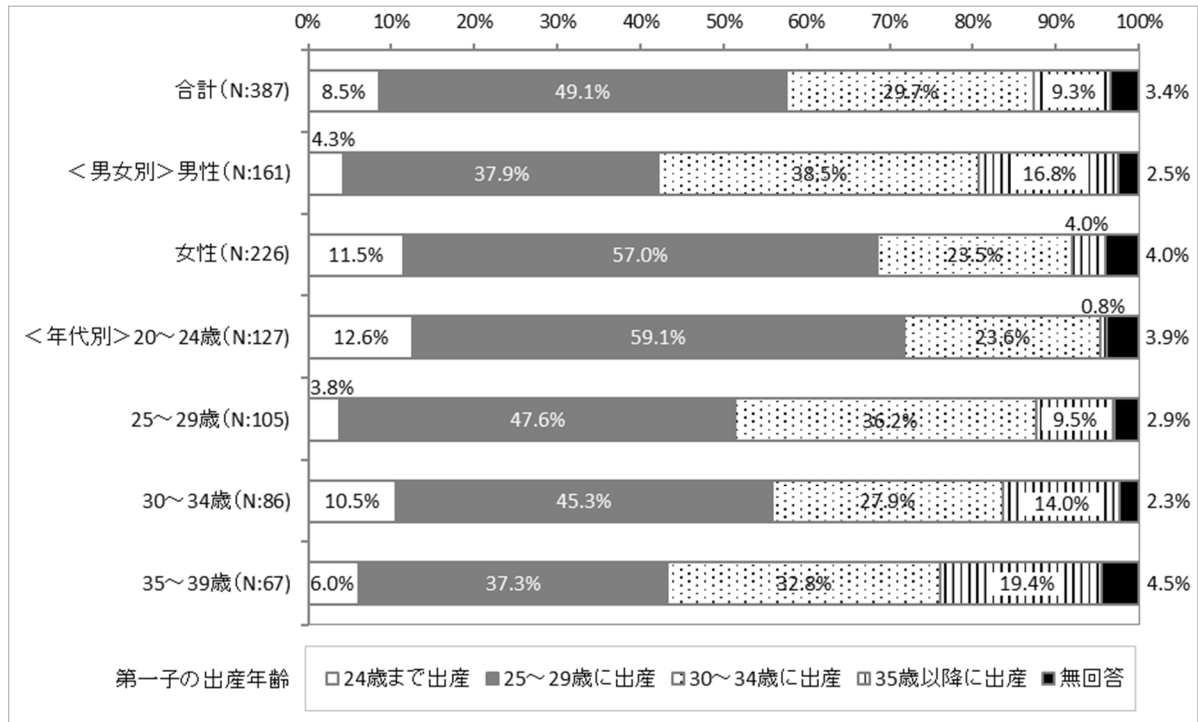


子どもが欲しい人（「1人」～「5人以上」と回答）が、子どもと関わった場面では「兄弟姉妹・親せきの子どもと」が61.2%、次いで「職場や仕事の関係で」46.8%、「友人・知人の子どもと」45.2%、「学校で」が29.7%となっている。回答者全員の集計（問32）と比較すると、「職場や仕事の関係で」と「友人・知人の子どもと」の順位は逆転しているが、大きな差は見られない。

また、男女別においても大きな差は見られない。

問34. 今後、子どもが欲しい方にお聞きします。あなたにとって、理想的には何歳くらいで第一子を持ちたい(又は持つべきだった)と思いますか。実際にどうであるか別にして、あなたにとっての理想的な年齢をお答えください。(数字を記入)

・理想的な第一子の出産年齢



全体では、「25～29歳に出産」が49.1%で最も多く、半数を占めている。次いで、「30～34歳に出産」が29.7%、「35歳以降に出産」が9.3%、「24歳まで出産」が8.5%となっている。

① 男女別の傾向

「25～29歳に出産」が男性37.9%、女性57.1%で19ポイント、「24歳まで出産」は男性4.3%、女性11.5%で8ポイント、男性より女性が多くなっている。一方で、「30～34歳に出産」は男性38.5%、女性23.5%で15ポイント、「35歳以降に出産」は男性16.8%、女性4.0%で13ポイント、女性より男性が多くなっている。女性は男性より早めに第一子を持ちたいという傾向にある。

② 年代別の傾向

「25～29歳に出産」は、「20～24歳」が59.1%で最も多くなっており、年代が下がるにつれて多くなっている。「30～34歳に出産」は、「25～29歳」が36.2%で最も多く、次いで「35～39歳」が32.8%となっている。「35歳以降に出産」は年代が上がるにつれて多くなっており、「35～39歳」が19.4%で最も多く、「20～24歳」では僅かに0.8%となっている。

・ 男女別・年代別の理想的な出産年齢の平均

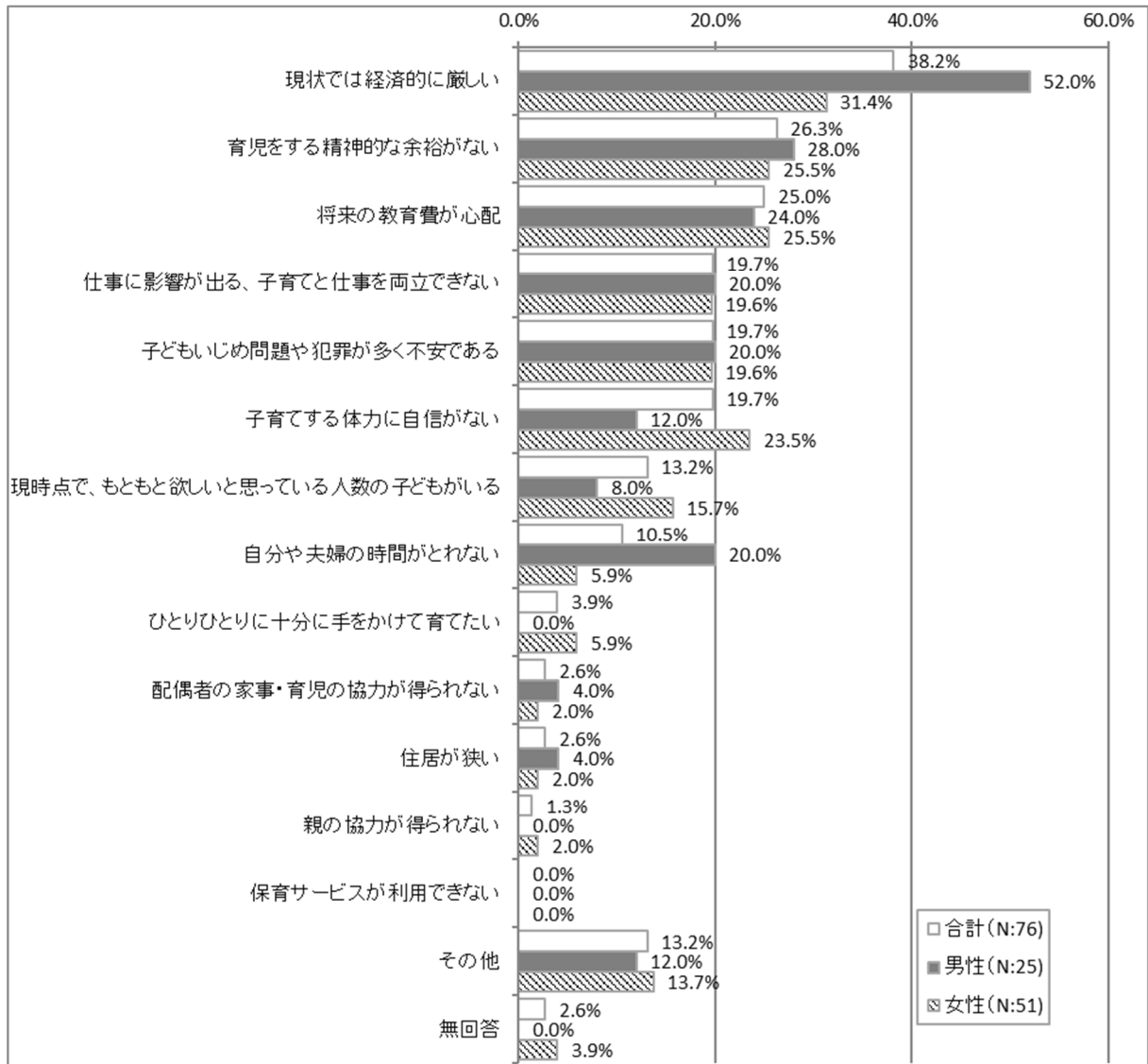
	男女計	男性	女性
合計	28.4歳	29.8歳	27.5歳
20～24歳	27.1歳	28.0歳	26.6歳
25～29歳	28.8歳	30.0歳	28.1歳
30～34歳	28.8歳	30.9歳	27.1歳
35～39歳	29.8歳	30.5歳	29.0歳

③ 理想的な出産年齢の平均

全体では、28.4歳となっており、男女別では、男性が29.8歳、女性は27.5歳となっている。  
 年代別では「20～24歳」27.1歳、「25～29歳」、「30～34歳」がともに28.8歳、「35～39歳」が29.8歳で年代が上がるにつれて、理想的な出産年齢も高くなっている。

問35. 子どもが欲しくない方にお聞きします。子どもが欲しくない理由をお答えください。(3つまで)

・子どもが欲しくない理由 (合計・男女別)

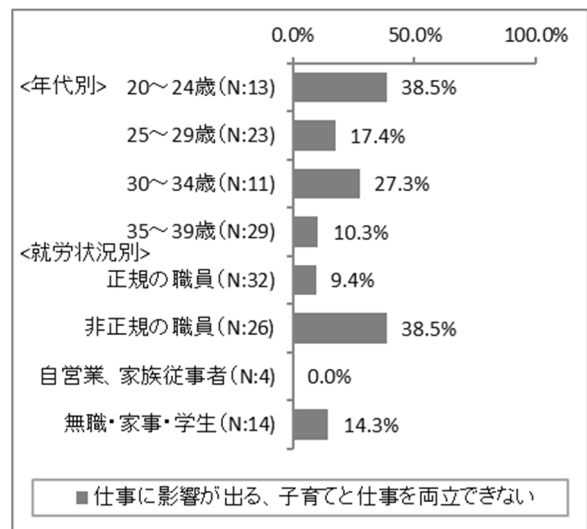
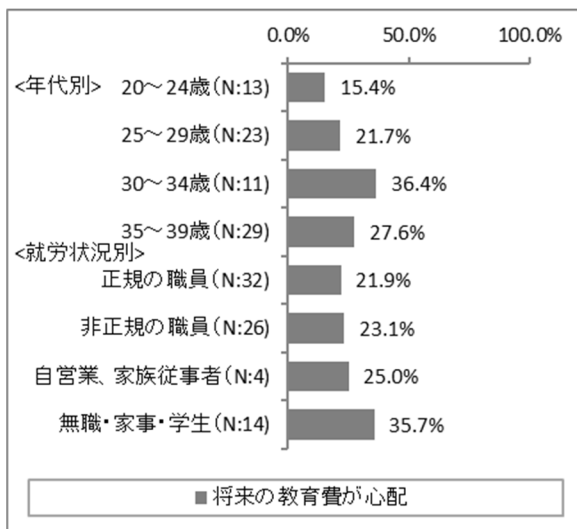
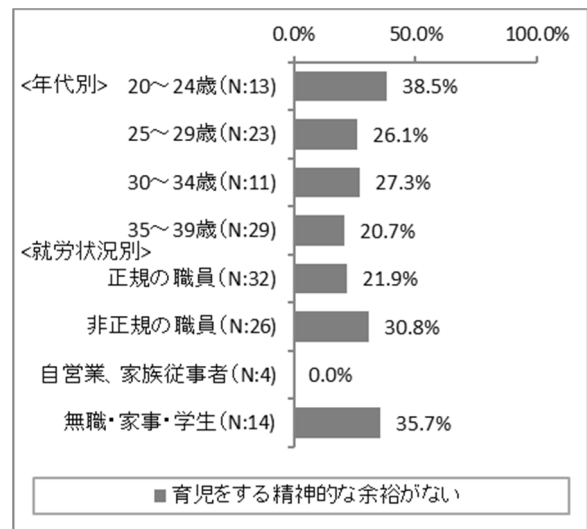
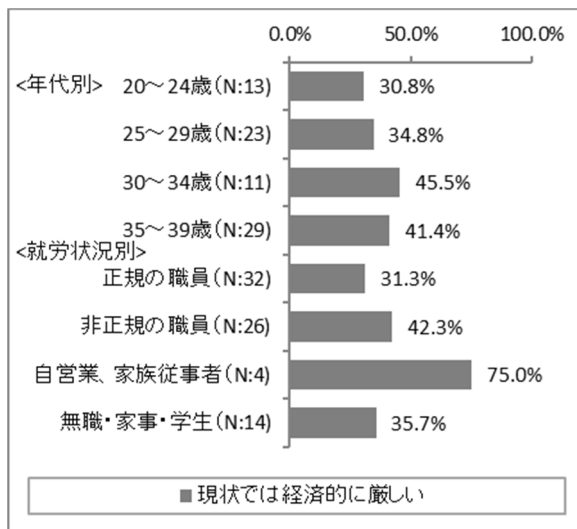


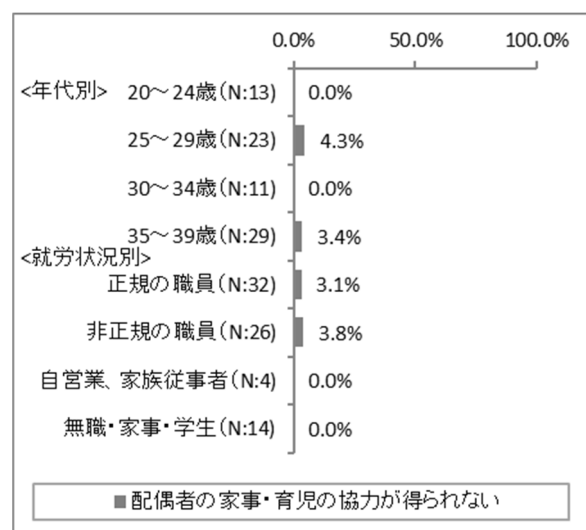
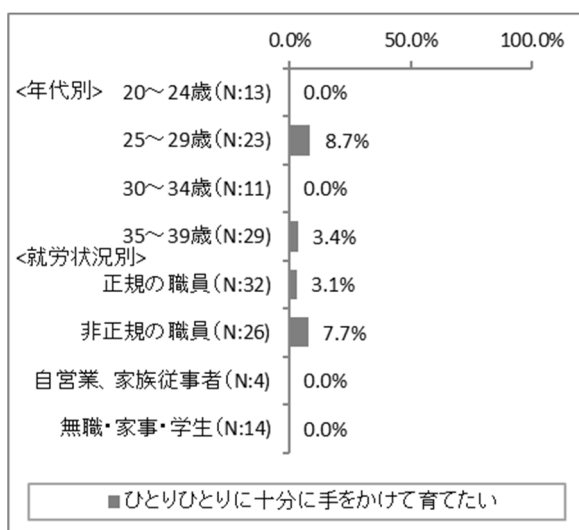
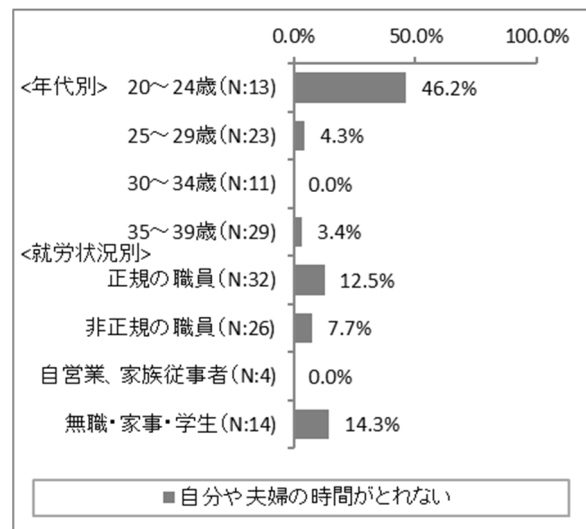
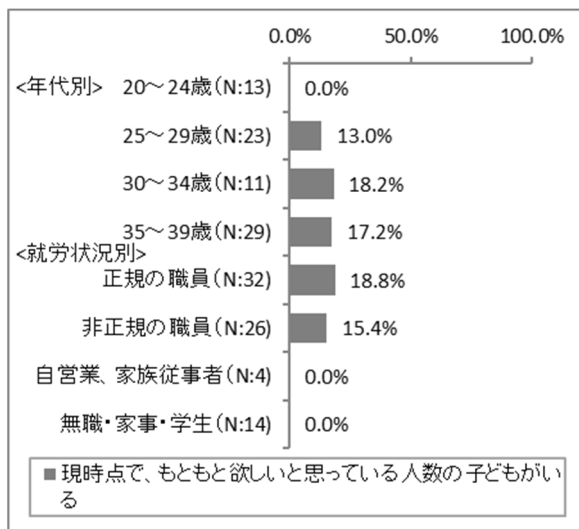
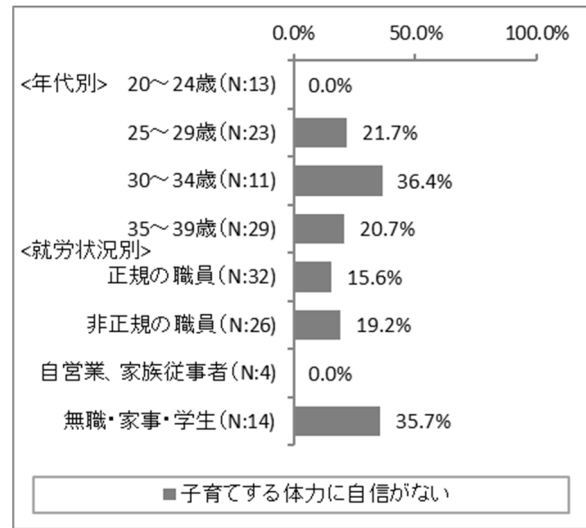
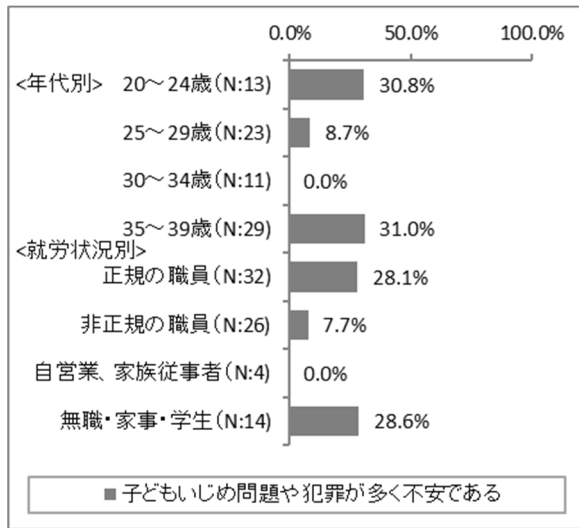
全体では、「現状では経済的に厳しい」が38.2%で最も多くなっている。次いで、「育児をする精神的な余裕がない」が26.3%、「将来の教育費が心配」が25.0%、「仕事に影響が出る、子育てと仕事を両立できない」、「子育てする体力に自信がない」、「子どもいじめ問題や犯罪が多く不安である」がともに19.7%となっている。

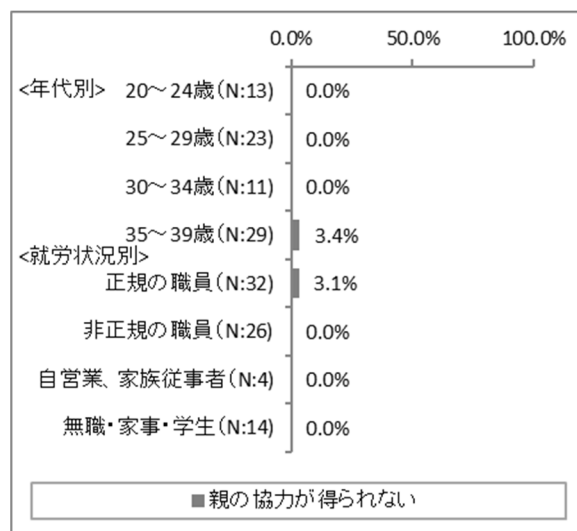
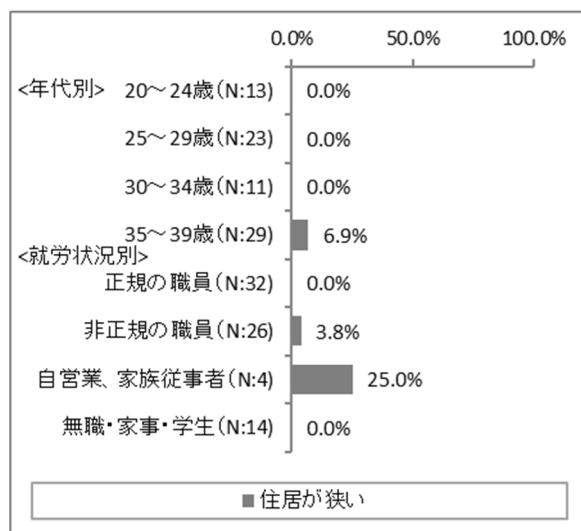
### ① 男女別の傾向

「現状では経済的に厳しい」は、男性 52.0%、女性 31.4%で 21 ポイント男性が多くなっており、「自分や夫婦の時間がとれない」は、男性 20.0%、女性 5.9%で 14 ポイント男性が多くなっている。一方で、「子育てする体力に自信がない」は、男性 12.0%、女性 23.5%で 12 ポイント女性が多く、「現時点で、もともと欲しいと思っている人数の子どもがいる」は、男性 8.0%、女性 15.7%で 8 ポイント女性が多くなっている。

#### ・子どもが欲しくない理由（年代別・就業状況別）







## ② 年代別の傾向

「現状では経済的に厳しい」、「将来の教育費が心配」はともに経済的な理由になるが、「30～34歳」の割合（各々45.5%、36.4%）が多く、次いで「35～39歳」（各々41.4%、27.6%）となっており、30歳代以降で多くなっている。「育児をする精神的な余裕がない」は、「20～24歳」が38.5%となっており、他年代より10ポイント以上多くなっている。また、「自分や夫婦の時間がとれない」は「20～24歳」が46.2%であるのに対して他年代は5%以下となっており、大きな差が見られる。

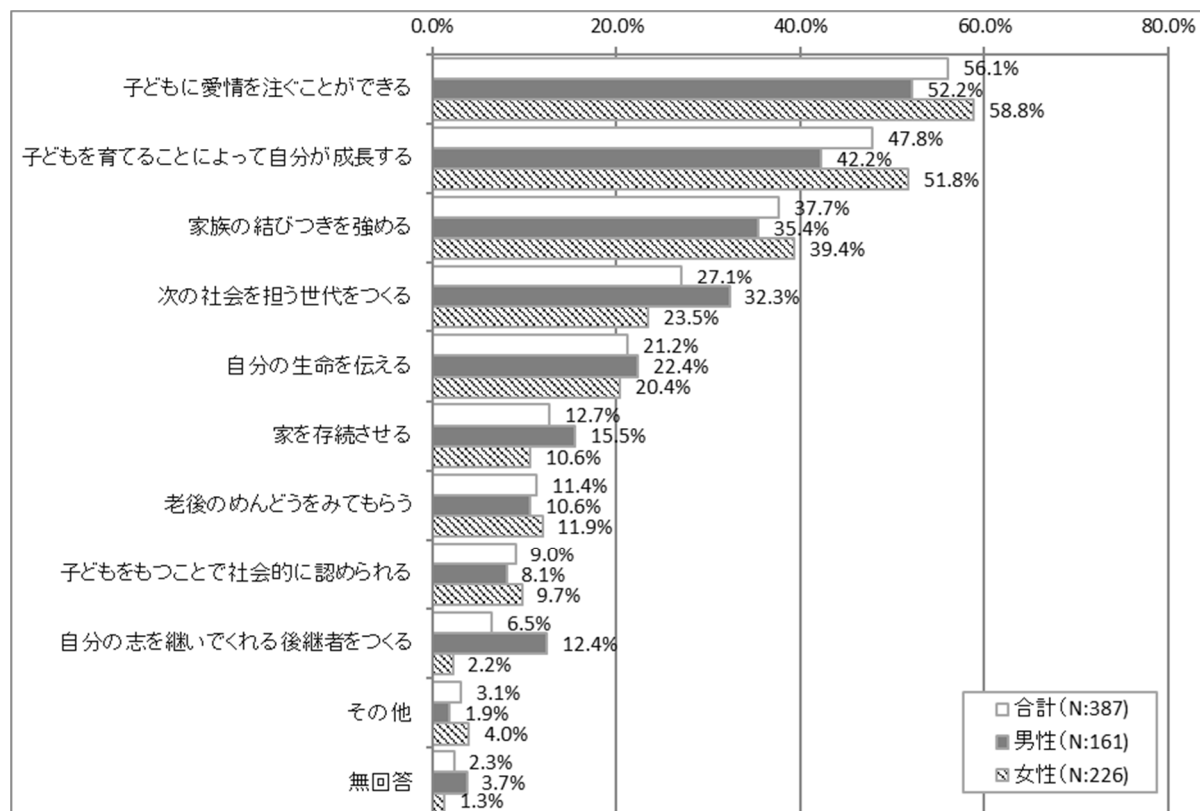
## ③ 就業状況別の傾向

「現状では経済的に厳しい」は、「正規の職員」31.3%、「非正規の職員」42.3%で11ポイント「非正規の職員」が多くなっている。また、「仕事に影響が出る、子育てと仕事を両立できない」は、「正規の職員」が9.4%、「非正規の職員」38.5%と30ポイントの大きな差がある。

「子どもいじめ問題や犯罪が多く不安である」が「正規の職員」が28.1%、「非正規の職員」7.7%と20ポイント「正規の職員」が多くなっている。

問36. 子どもが欲しい方にお聞きます。あなたが子どもを欲しいと思う理由をお答えください。  
(3つまで)

・子どもが欲しい理由（合計・男女別）



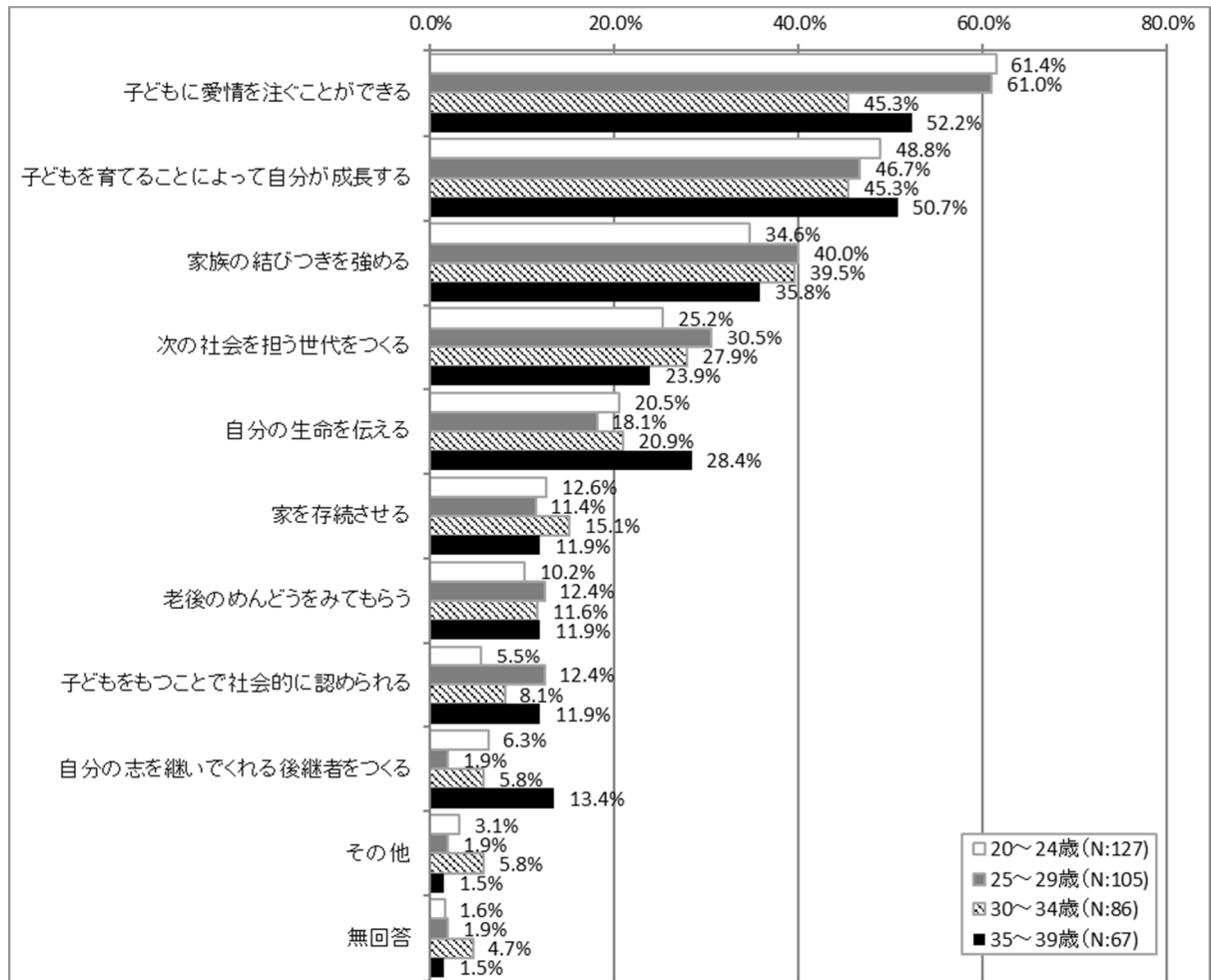
全体では、「子どもに愛情を注ぐことができる」が56.1%、次いで「子どもを育てることによって自分が成長する」47.8%、「家族の結びつきを強める」37.7%、「次の社会を担う世代をつくる」27.1%、「自分の生命を伝える」21.2%となっている。

① 男女別の傾向

「子どもに愛情を注ぐことができる」は、男性52.2%、女性58.8%、「子どもを育てることによって自分が成長する」は、男性42.2%、女性51.8%、「家族の結びつきを強める」は、男性35.4%、女性39.4%で上位3項目は、いずれも女性が男性より多くなっている。「次の社会を担う世代をつくる」は、男性32.3%、女性23.5%、「自分の生命を伝える」は、男性22.4%、女性20.4%、「家を存続させる」は、男性15.5%、女性10.6%、「自分の志を継いでくれる後継者をつくる」は、男性12.4%、女性2.2%と男性の方が女性より多くなっており、男性は子どもに対して「次世代への継承」という思いが表れている。



・子どもが欲しい理由（年代別）

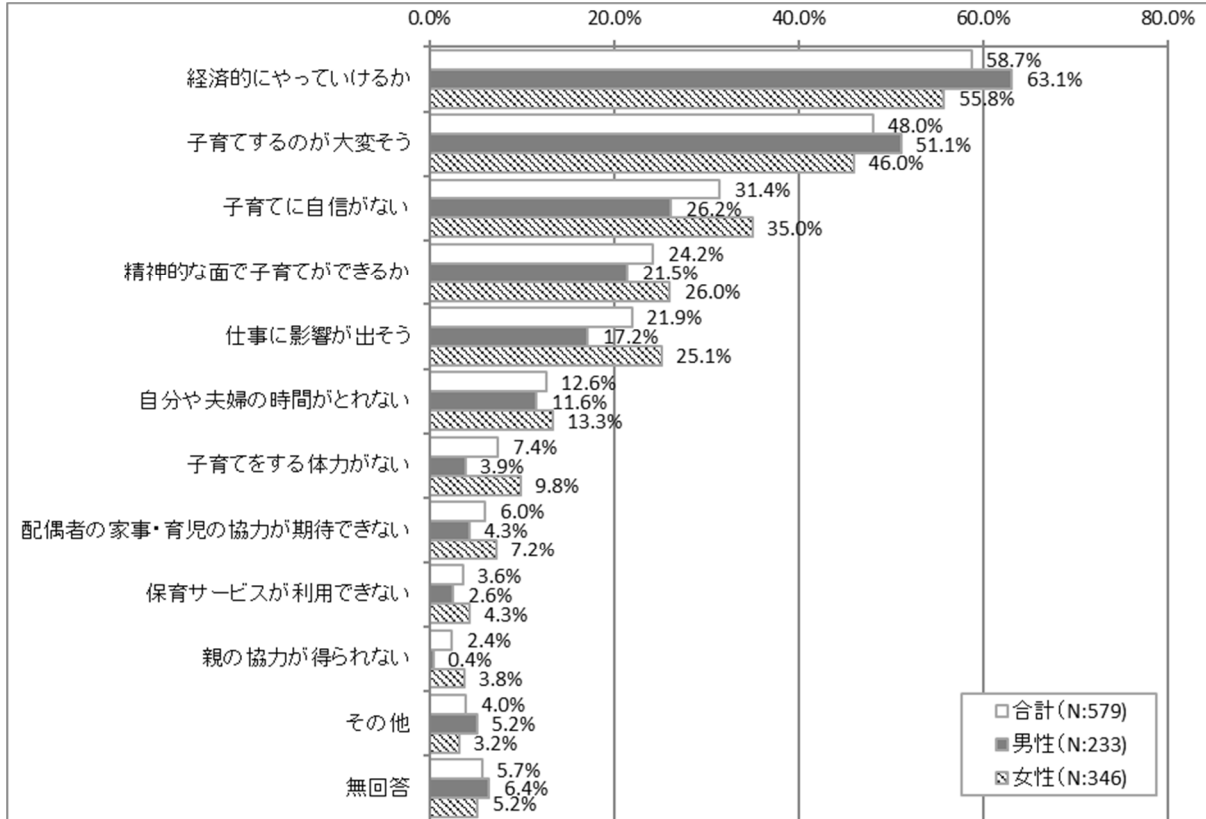


② 年代別の傾向

「子どもに愛情を注ぐことができる」は、「20~24歳」が61.4%、「25~29歳」が61.0%で20歳代が多くなっている。「子どもを育てることによって自分が成長する」は「35~39歳」が50.7%と最も多く、「30~34歳」が45.3%で最も少ないが年代によって大きな差はない。「次の社会を担う世代をつくる」では「25~29歳」が30.5%と多くなっている。

問37. 子育てで不安に思っていることをお答えください。(3つまで)

・子育てで不安に思っていること（合計・男女別）

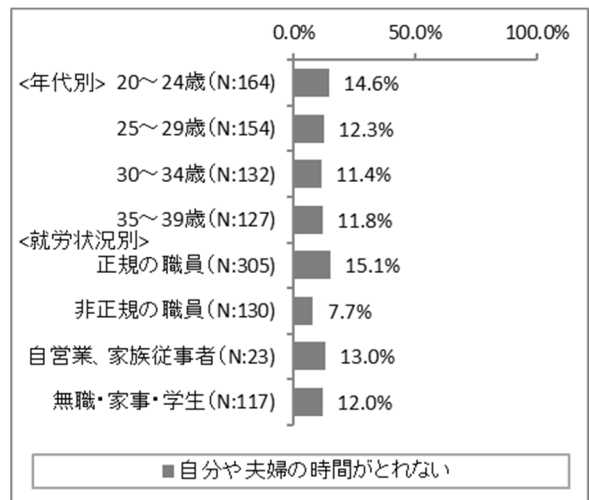
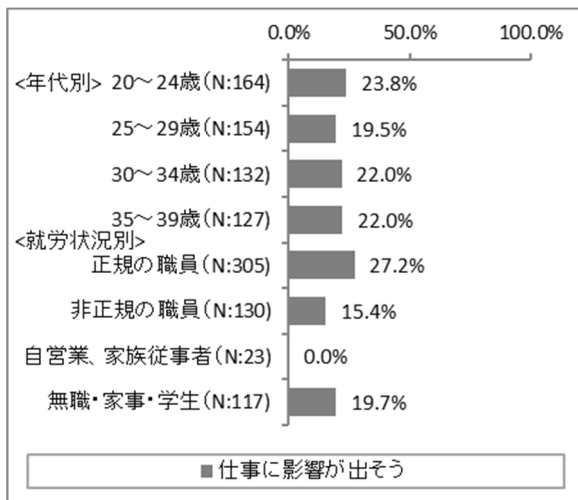
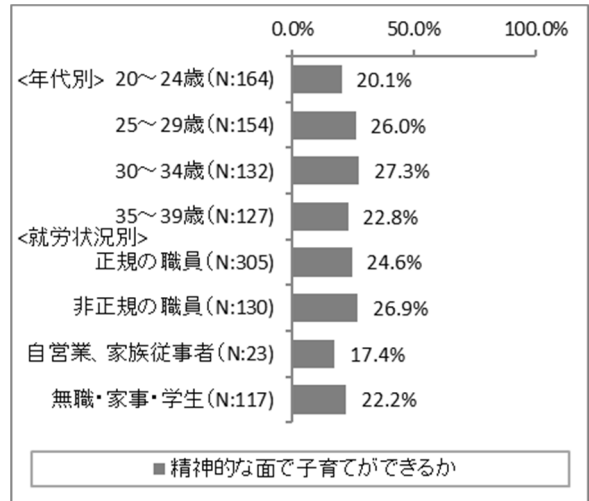
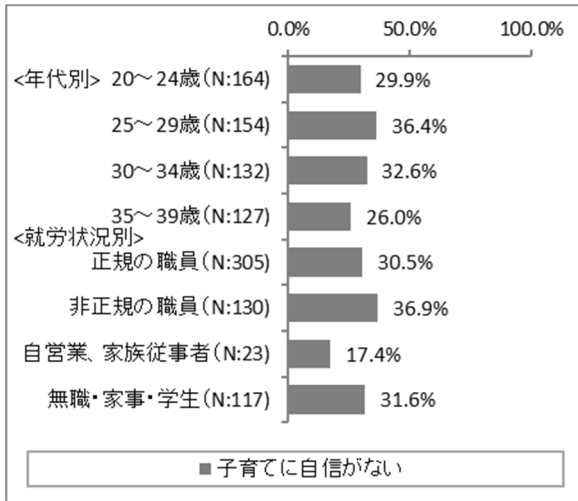
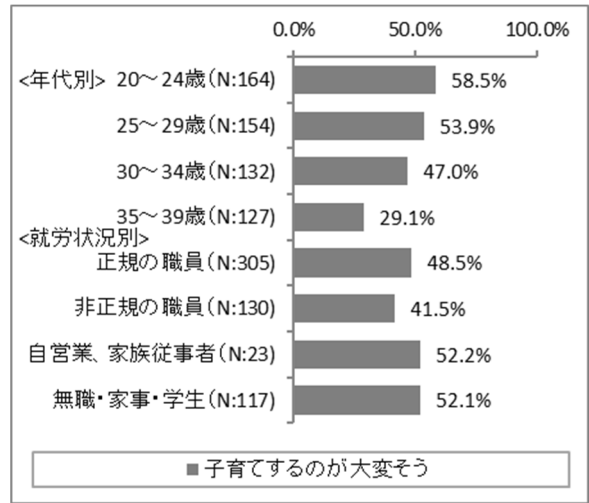
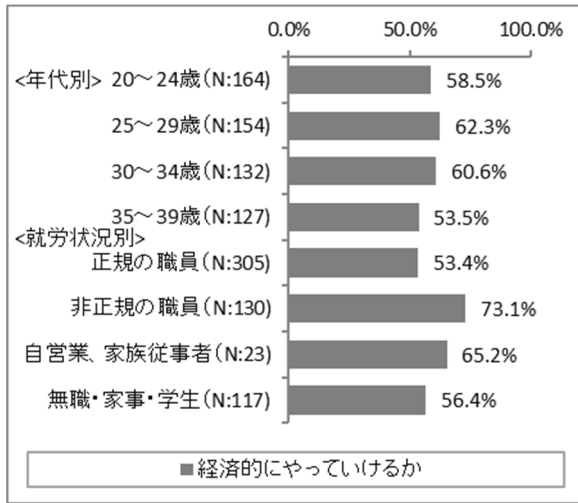


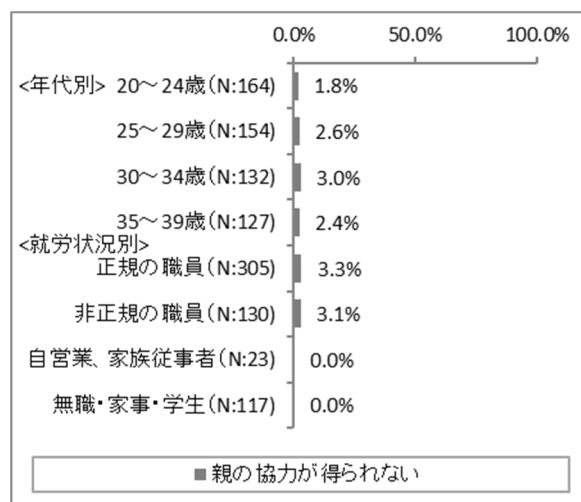
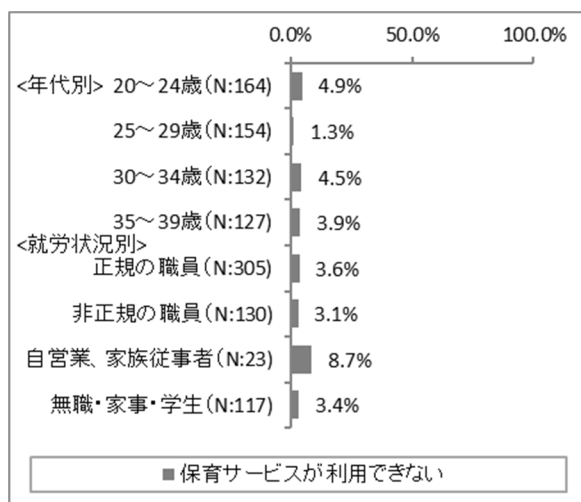
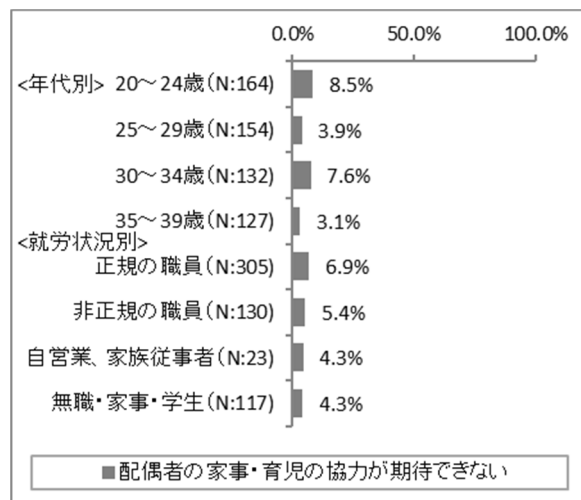
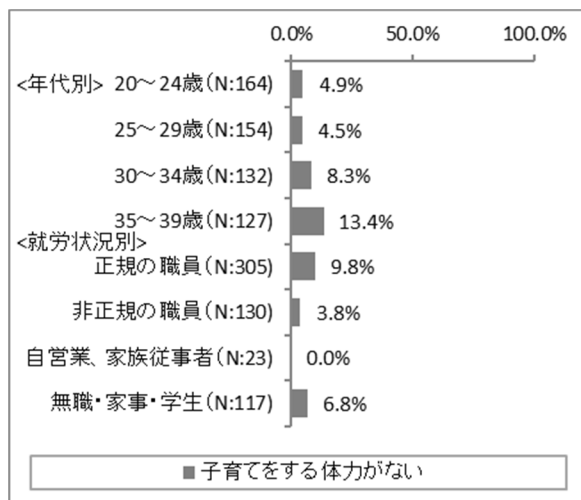
全体では、「経済的にやっていけるか」が58.7%で最も多く、「子育てするのが大変そう」48.0%、「子育てに自信がない」31.4%、「精神的な面で子育てができるか」24.2%、「仕事に影響が出そう」21.9%となっている。

① 男女別の傾向

「経済的にやっていけるか」は、男性63.1%、女性55.8%、「子育てするのが大変そう」は、男性51.1%、女性46.0%で上位2項目は男性が女性より多くなっている。他の項目では全て女性が男性より多くなっており、「子育てに自信がない」、「仕事に影響が出そう」は8ポイント以上、女性が男性より多くなっている。

・子育てで不安に思っていること（年代別・就業状況別）





## ② 年代別の傾向

「経済的にやっていけるか」は、「25～29歳」が62.3%で多くなっている。「子育てするのが大変そう」は、年代が下がるにつれて多くなっており「20～24歳」が58.5%で最も多く、「35～39歳」は29.1%と少なくなっている。

## ③ 就労状況別の傾向

「経済的にやっていけるか」は、「正規の職員」53.4%に対して「非正規の職員」73.1%となっており、20ポイント多くなっている。一方で、「仕事に影響が出そう」は、「非正規の職員」15.4%に対して、「正規の職員」27.2%となっており、12ポイント多くなっている。

また「自営業、家族従事者」は、「子育てするのが大変そう」が52.2%で他の就業状況より多くなっている。